

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	岩種	色	岩級区分	細区分				R	Q	D	備考
					細区分	細区分	細区分	細区分				
0	122.23											
0	122.97											
123	123.41											
124	125.38											
125	125.30											

記事内容
122.23~122.42m: CL 上位よりやや風化が進み、岩芯や割れ目の一部が褐色化する 白い筋状のゆ着割れ目もハンマー打撃で分離・細片化し易いもの多い。
122.42~122.97m: CM 堅硬であるが、一部でハンマー打撃で分離し易いゆ着割れ目も含む 割れ目は薄褐色化するが挟在物は分布しない。 φ5~10m/m橙色のかり長石斑晶が点在し、白濁化した長石は殆んど分布しない。
122.97~133.41m: CL 堅硬。風化や変質による劣化はないが、割れ目が多く、60~70°割れ目が同方向に1~5cm間隔で分布する。 割れ目挟在物は殆んど分布しない。
133.41~125.38m: CM 一部で密着度の低い割れ目や「ゆ着割れ目」が分布し、ハンマーの強打で分離・細片化する(分離・細片化しないものもある) ほぼ未風化・未変質で長石の白濁化は肉眼では認められない。 全体にφ1~2m/m暗緑灰色の緑泥石を斑点状に含み緑灰色を帯びる
124.30m付近でコアが片状化しているが、これはコアチューブ引上げ時に人為的に発生した乱れである。

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	備考
					CL	100	10	10			
					CH	100	23	79			
					CL	100	10	10			
					CL	100	12	12			
					CM	100	10	10			
					CL	100	15	30			
					CL	100	7	0			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
153	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 変色、割れ目の密着状態、挟在物の有無、割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
154	<ul style="list-style-type: none"> 上端深度133.41m→123.41m※3 “コアの硬さ”欄、“コアの形状”欄に基づき、硬質、岩片~短柱状と記載。 岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 割れ目の密着状態、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 長石の白濁化については、風化・変質による補足的なものであるため削除。
155	<ul style="list-style-type: none"> 124.30m付近で片状化しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

掘削 深さ (m)	深度 (m)	境界・異層位置	地層名	色調	細区分				異層区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目形状	割れ目の長さ	風化	密度			
0.0	126.40		花崗斑岩		割れ目形状	割れ目の長さ	風化	密度	CL	125.00~125.38m: CL 125.38~125.70m: CL 125.70~126.25m: CM 126.25~127.41m: CL 127.41~127.97m: CL	
0.5	126.35		花崗斑岩		割れ目形状	割れ目の長さ	風化	密度	CL	125.00~125.38m: CL 125.38~125.70m: CL 125.70~126.25m: CM 126.25~127.41m: CL 127.41~127.97m: CL	
1.0	126.27		花崗斑岩		割れ目形状	割れ目の長さ	風化	密度	CL	125.00~125.38m: CL 125.38~125.70m: CL 125.70~126.25m: CM 126.25~127.41m: CL 127.41~127.97m: CL	
1.5	126.00		花崗斑岩		割れ目形状	割れ目の長さ	風化	密度	CL	125.00~125.38m: CL 125.38~125.70m: CL 125.70~126.25m: CM 126.25~127.41m: CL 127.41~127.97m: CL	

記事内容
125.00~125.38m 白い筋状のゆ着割れ目が多いが、周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。
125.38~125.70m: CL 密着度がきわめて低い割れ目や、ゆ着割れ目が10m/m程度の間隔で分布。ハンマーの軽打で分離・細片化する。すでに開口化するものも多い。
125.38m 50° 割れ目ぞい幅10m/mはφ3~5m/mの硬質細片状化部、粘土、砂は伴わない。
125.70~126.25: CM 一部で密着度が低い割れ目や、ゆ着割れ目を含む。 割れ目挟在物は分布しない
126.25~127.41m: CL 一部で50~60° 割れ目ぞいにφ5m/m前後に細片化~砂状化する。また厚さ1~2m/mの緑灰、灰白色軟質粘土もはさんでいる。 硬さ「C」岩片主体部は灰褐色(7.5YR 6/2)で残留し、細片化~砂状化部にはふい橙(7.5YR 6/4)の色調で、全体では後者色調が主体。
127.00m以深は挟在物は分布しなくなる。

掘削 深さ (m)	深度 (m)	境界・異層位置	地層名	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	記事
0.0	126.40		花崗斑岩		CL	100	15	30			傾斜は32°である。 123.41~125.38m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~細片状を呈する。
0.5	126.35		花崗斑岩		CL	100	7	0			125.38m ・割れ目沿いに細片化している。
1.0	126.27		花崗斑岩		CL	100	3	0			127.41~127.48m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。
1.5	126.00		花崗斑岩		CL	100	4	0			・灰白色の粘土状~ふい黄褐色の粘土混じり塊状を呈する。
			花崗斑岩		CM	100	5	0			・灰白色粘土、累計厚1mm
			花崗斑岩		CL	100	3	0			・走向・傾斜はN6° E82Eである。
			花崗斑岩		D	100	3	0			・傾斜は50°である。
			花崗斑岩		D	100	2	0			・上層境界の傾斜は50°、下層境界の傾斜は50°~66°である。
			花崗斑岩		D	100	5	0			・128.82~129.7m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。
			花崗斑岩		D	100	3	0			・暗緑色の砂混じり粘土状~灰赤色の粘土・砂混じり塊状を呈する。
			花崗斑岩		D	100	4	0			・暗緑灰色砂混じり粘土、累計厚5mm
			花崗斑岩		D	100	3	0			・走向・傾斜はN62° E1°である。
			花崗斑岩		D	100	3	0			・傾斜は63°である。
			花崗斑岩		D	100	3	0			・上層境界の傾斜は30°、下層境界の傾斜は62°である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
156	・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。
157	・割れ目の傾斜、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・細片化の幅については、一部で不連続で、ばらつきがあるため削除。
158	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態・挟在物の有無、色調については、補足的なものであるため削除。 ・126.25~127.41mの一部割れ目沿いで細片~砂状化し、粘土を挟在するが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層厚 (m)	層名	地質記号	心部地質	細区分							破砕度区分	硬軟度区分	備考・観察性状・顕微鏡スケッチ等
				粘土質	シルト質	シルト質	シルト質	シルト質	シルト質	シルト質			
127.41												●127.41~127.48m: 破砕帯(主せん断面127.41m) 50°で上下端とも直線的に連続、石英粒、岩片を含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調は灰白(10YR 8/1)、厚さ0.5~1m/m	
127.48												●127.41~127.48m: HJ 上端50°で直線的、下端は50~66°で湾曲して連続、φ3~5m/mに細片化した岩片からなり、岩片間には幅1~2m/mの軟弱粘土が脈状に分布。岩片は硬さ「D」主体で硬さ「E」も少量含む。127.47mに主せん断面と同方向のsjぞいにマンガン鉱染を伴う。色調はにぶい黄橙(10YR 7/4)、厚さ40~45m/m	
127.82												●127.82~127.83m: CL 40~60°割れ目主体で一部で厚さ1m/m以下の風化砂状部をはさむ。粘土ははさまない。	
127.83												●127.82~127.83m: 上端60°、下端61°割れ目に囲まれ、φ2~3m/m破砕帯細片を含む固結した中粒~粗粒砂状を呈する。粘土は伴わない。	
128.82												●128.82~128.97m: HJ 上端30°幅1~2m/m軟質緑灰色粘土脈で、下端63°でいずれも直線的に連続。主せん断面に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜~直交する割れ目が多く、φ3~10m/mに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。全体として「砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)、厚さ50~90m/m	
128.97												●128.87~128.88m: Hc-2 63°で上下端とも直線的に連続。φ1~3m/m石英粒と岩片を20%程度含む軟質粘土(ガウジ)。色調は暗緑灰(5G 4/1)、厚さ3~5m/m	
128.88												●128.88~128.97m: HJ 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2m/mの硬質白色鉱物脈と接する。60~70°と10~30°割れ目が多くφ5~15m/mに岩片化。岩片間に緑色粘土細脈や薄く砂状化する「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)、厚さ60m/m	

記事内容
●127.41~127.48m破砕帯(主せん断面127.41m) 127.41m: Hc-1 50°で上下端とも直線的に連続、石英粒、岩片を含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調は灰白(10YR 8/1)、厚さ0.5~1m/m
●127.41~127.48m: HJ 上端50°で直線的、下端は50~66°で湾曲して連続、φ3~5m/mに細片化した岩片からなり、岩片間には幅1~2m/mの軟弱粘土が脈状に分布。岩片は硬さ「D」主体で硬さ「E」も少量含む。127.47mに主せん断面と同方向のsjぞいにマンガン鉱染を伴う。色調はにぶい黄橙(10YR 7/4)、厚さ40~45m/m
●127.82~127.83m: CL 40~60°割れ目主体で一部で厚さ1m/m以下の風化砂状部をはさむ。粘土ははさまない。
●127.82~127.83m: 上端60°、下端61°割れ目に囲まれ、φ2~3m/m破砕帯細片を含む固結した中粒~粗粒砂状を呈する。粘土は伴わない。
●128.82~128.97m破砕帯(主せん断面128.87m) 128.82~128.87m: HJ 上端30°幅1~2m/m軟質緑灰色粘土脈で、下端63°でいずれも直線的に連続。主せん断面に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜~直交する割れ目が多く、φ3~10m/mに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。全体として「砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)、厚さ50~90m/m
●128.87~128.88m: Hc-2 63°で上下端とも直線的に連続。φ1~3m/m石英粒と岩片を20%程度含む軟質粘土(ガウジ)。色調は暗緑灰(5G 4/1)、厚さ3~5m/m
●128.88~128.97m: HJ 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2m/mの硬質白色鉱物脈と接する。60~70°と10~30°割れ目が多くφ5~15m/mに岩片化。岩片間に緑色粘土細脈や薄く砂状化する「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)、厚さ60m/m

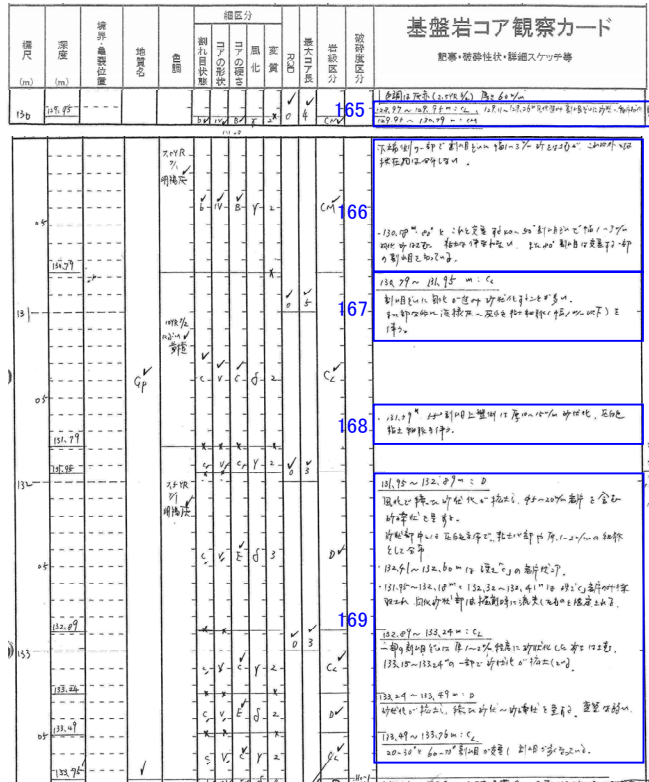
層厚 (m)	層名	地質記号	心部地質	細区分	破砕度区分	硬軟度区分	備考・観察性状・顕微鏡スケッチ等
127.41							●127.41~127.48m: 破砕帯(主せん断面127.41m) 50°で上下端とも直線的に連続、石英粒、岩片を含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調は灰白(10YR 8/1)、厚さ0.5~1m/m
127.48							●127.41~127.48m: HJ 上端50°で直線的、下端は50~66°で湾曲して連続、φ3~5m/mに細片化した岩片からなり、岩片間には幅1~2m/mの軟弱粘土が脈状に分布。岩片は硬さ「D」主体で硬さ「E」も少量含む。127.47mに主せん断面と同方向のsjぞいにマンガン鉱染を伴う。色調はにぶい黄橙(10YR 7/4)、厚さ40~45m/m
127.82							●127.82~127.83m: CL 40~60°割れ目主体で一部で厚さ1m/m以下の風化砂状部をはさむ。粘土ははさまない。
127.83							●127.82~127.83m: 上端60°、下端61°割れ目に囲まれ、φ2~3m/m破砕帯細片を含む固結した中粒~粗粒砂状を呈する。粘土は伴わない。
128.82							●128.82~128.97m: HJ 上端30°幅1~2m/m軟質緑灰色粘土脈で、下端63°でいずれも直線的に連続。主せん断面に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜~直交する割れ目が多く、φ3~10m/mに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。全体として「砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)、厚さ50~90m/m
128.87							●128.87~128.88m: Hc-2 63°で上下端とも直線的に連続。φ1~3m/m石英粒と岩片を20%程度含む軟質粘土(ガウジ)。色調は暗緑灰(5G 4/1)、厚さ3~5m/m
128.88							●128.88~128.97m: HJ 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2m/mの硬質白色鉱物脈と接する。60~70°と10~30°割れ目が多くφ5~15m/mに岩片化。岩片間に緑色粘土細脈や薄く砂状化する「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)、厚さ60m/m

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
159	<ul style="list-style-type: none"> ・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し(岩片間には幅1~2mmの軟弱粘土が脈状に分布→粘土混じり礫状) ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
160	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・一部割れ目目以て砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・127.82~127.83mで中粒~粗粒砂状を呈するが、比較的硬質で、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
161~164	<ul style="list-style-type: none"> ・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し(粘土・砂混じり岩片状→粘土・砂混じり礫状) ・φ1~3mm石英粒と岩片を20%程度含むとの記載に基づき砂混じり粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粘土脈については、いずれも連続性や直線性に乏しいため削除。

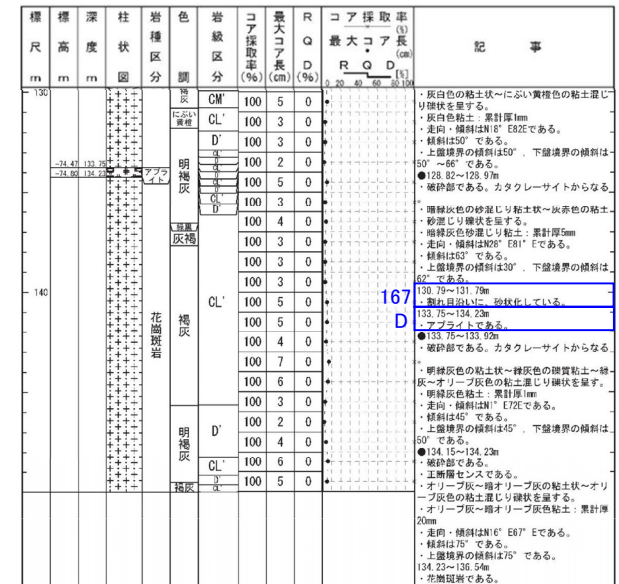
コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
128.97~129.95m: CL 129.11~129.26m風化進み割れ目ぞいに砂状・細片状化する。 129.95~130.79m: CM
下端側の一部で割れ目ぞいに幅1~3m/m砂をはさむが、これ以外では挟在物は分布しない。 130.58m 80°とこれと交差する40~50°割れ目ぞいで幅1~3m/m風化砂はさむ。粘土は伴わない。また80°割れ目は交差する一部の割れ目を切っている。
130.79~131.95m: CL 割れ目ぞいに風化が進み砂状化することが多い。 また部分的に淡緑灰~灰白色粘土細脈(幅1m/m以下)を伴う。
131.79m 55°割れ目上盤側は厚10~15m/m砂状化、灰白色粘土細脈も伴う
131.95~132.89m: D 風化で締った砂状化が拡大し、φ5~20m/岩片を含む砂礫状を呈する。砂状部中には灰白色主体で、粘土化部や厚1~2m/mの細脈として分布 132.41~132.60mは硬さ「C」の岩片状コア。 131.95~132.18mと132.32~132.41mは硬さ「C」岩片のみ採取され、風化砂状部は掘削時に流失したものと推定される。 132.89~133.24m: CL 一部の割れ目ぞいは厚さ1~2m/m程度に砂状化した砂をはさむ。 133.15~133.24mの一部で砂状化が拡大している。 133.24~133.49m: D 砂状化が拡大し、締った砂状~砂礫状を呈する。変質は弱い。 133.49~133.76m: CL 20~30°と60~70°割れ目が交差し、割れ目が多くなっている。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
165, 166	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 一部割れ目ぞいで砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 130.58mで割れ目を切っているとの記載については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
167, 168	<ul style="list-style-type: none"> 砂状化が特に目立つ区間として、130.79~131.79mと記載。 一部割れ目ぞいに粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。 岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 割れ目の傾斜、色調については、補足的なものであるため削除。
169	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 131.95~132.89m、133.24~133.49mで砂礫状を呈し、一部で粘土を挟在するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 132.89~133.24mの一部割れ目ぞいで砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
D	<ul style="list-style-type: none"> “地質名”欄に基づき、アプライトとその深度区間を記載。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層位	深度	岩種	色	岩級	細区分		備考
					細区分	細区分	
133.75	133.75	破砕帯	緑灰	10G	7/1		170
133.75	133.80	硬さ「E」	緑灰	10G	6/1		171
133.80	133.92	硬さ「C」	緑灰	10G	6/1		172

記事内容
<p>●133.75～133.92m: 破砕帯(主せん断面133.75m)</p> <p>133.75m:Hc-1 45°で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調は明緑灰(10G 7/1)、厚さ0.5～1m/m</p> <p>133.75～133.80m:Hb 上端45°で直線的に、下端35°で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」岩片を20～30%含む軟質な「糊質粘土状」呈する。硬さ「D」岩片中には主せん断面と同方向の割れ目が分布する。色調は緑灰(10G 6/1)、厚さ30～40m/m</p> <p>133.80～133.92m:Hj 上端35°、下端50°でともに波打って連続。大半が粘土化したφ5～10m/m岩片で、岩片間は幅1～2m/m灰白～緑灰色軟質粘土が脈状に分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は上端側が緑灰(10G 6/1)、下端側がオリブ灰(2.5GY 5/1)、厚さ100m/m</p>
<p>133.92～134.15m 硬さ「C」主体</p>

層位	深度	岩種	色	岩級	細区分	最大コア長	R	Q	コア採取率	最大コア長	記事	
m	m	m	m	m	m	cm	(%)	(%)	R	Q	D	
130	133.75	破砕帯	緑灰	10G	7/1	5	0	0	100	5	0	・灰白色の粘土状～灰黄色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白色粘土：累計厚1mm ・走向・傾斜はN10°E22°である。 ・傾斜は15°である。 ・上層境界の傾斜は50°、下層境界の傾斜は50°～66°である。 ●133.75～133.79m ・破砕帯である。カタクレーサイトからなる。
140	133.75	明緑灰	明緑灰	10G	6/1	3	0	0	100	3	0	・明緑灰色の粘土状～糊質粘土～緑灰～オリブ灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・厚さ5mm ・走向・傾斜はN10°E22°である。 ・傾斜は15°である。 ・上層境界の傾斜は30°、下層境界の傾斜は62°である。 130.79～131.79m ・割れ目状に、砂状化している。 133.75～134.23m ・コア採取率である。
	133.75	明緑灰	明緑灰	10G	6/1	3	0	0	100	3	0	●133.75～133.92m ・破砕帯である。カタクレーサイトからなる。
	133.80	明緑灰	明緑灰	10G	6/1	3	0	0	100	3	0	●134.15～134.23m ・破砕帯である。 ・土層間を呈する。 ・オリブ灰～暗オリブ灰の粘土状～オリブ灰色の粘土混じり礫状を呈する。累計厚20mm ・走向・傾斜はN10°E67°Eである。 ・傾斜は75°である。 ・上層境界の傾斜は75°である。 134.23～136.54m ・花崗岩である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
170, 171	<ul style="list-style-type: none"> ・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粘土脈については、いずれも連続性や直線性に乏しいため削除。
172	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層名	深さ	直径	採取深度	採取方法	採取位置	採取深度	採取方法	採取位置	採取深度	採取方法	採取位置	採取深度	採取方法	採取位置
135	135.00													
136	136.00													
137	137.00													
138	138.00													
139	139.00													
140	140.00													

記事内容
173 ●134.15~134.23m: 破砕帯(主せん断面134.15m)
174 134.15~134.19m:Hc-1 75°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆ど含まない軟質粘土(ガウジ)。下端側にφ0.5m/m以下の黄鉄鉱が点在する。 色調は上端側・オリブ灰(2.5GY 5/1)、中央・明オリブ灰(2.5GY 7/1)、 下端・暗オリブ灰(2.5GY 4/1)で3色の縞状模様を呈する 厚さ20m/m
175 134.19~134.23:Hj 上端75°で直線的に、下端はコアが砕けているため不明(50°の可能性あり)。 φ5~20m/m岩片に砕け、その割れ目には灰緑色粘土が付着するため「粘土混じり岩片状」を呈すると推定される。 色調はオリブ灰(2.5GY 5/1)、厚さ30m/m以上。
176 134.23~134.77m:CL 細粒玄武岩(ドレイト)下盤側貫入境界直下部である。 割れ目はやよが多いが劣化は伴わない。 134.23~134.33m DoとGpが混在した岩相を呈する。色も緑灰色。 134.77~135.34m:D 土砂状~φ10m/m細岩片状部が主体
177 135.34~145.65m:CL 硬さ「C」を主体とした割れ目発達部 硬さ「B」は上端の135.34~136.50mに小分布 一部で密着度の低いゆる割れ目を含んでいる 硬さ「B」は割れ目ぞいに風化が広がりφ5~10m/mの岩片を含む砂礫状を呈し、136.50~136.64m、137.44~137.60m、139.87~140.04mにコア長15cm前後で分布する。 136.40m以深でφ2~3m/mの暗緑灰色、緑泥白斑点が点在する。 136.54m 35°幅10~15mでアブライトがφ5m/m前後で砕けて分布。両境界部も含め粘土は伴わない。
178

層名	深さ	直径	採取深度	採取方法	採取位置	採取深度	採取方法	採取位置	採取深度	採取方法	採取位置	採取深度	採取方法	採取位置
135	135.00													
136	136.00													
137	137.00													
138	138.00													
139	139.00													
140	140.00													

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
173~175	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) ・ポアホールテレビによる最新活動面の走向傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・縞状模様については、色調で示していることから削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
E	・“地質名”欄に基づき、花崗斑岩とその深度区間を記載。
176	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・上部の貫入岩については、“岩種区分”欄に示しているため削除。(ドレイトはアブライトの誤り) ・134.77~135.34mでは、土砂状~細岩片状を呈するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
177	・“コアの形状”欄に基づき、岩片状~一部土砂状と記載。 ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の密着状態、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・一部で砂礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
178	・“色調”欄に基づき記載。 ・暗緑灰色は、緑黒色の誤り。※1

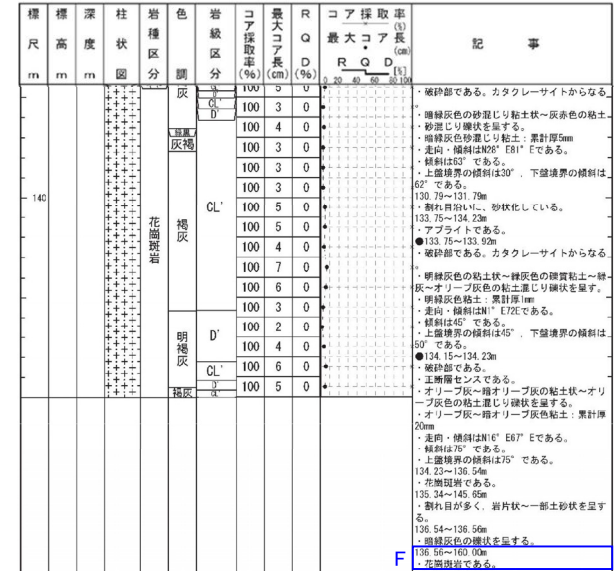
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基礎岩コア観察カード		細区分									
深さ (m)	層番号	地質名	色調	鉱物	結晶	構造	特徴	備考	その他	状態	備考
137.44											
137.68											
138.00											
138.75											
139.67											
139.87											
140.04											
140.40											
140.50											

記事内容
<p>137.44~137.53mはφ5~10m/m破碎状の細礫主体。137.53~137.60mは締った砂状部も含む。 137.68mで色調が変化。 137.68mで浅は橙色を帯びる。これはカリ長石が多いため。137.68mで深は淡緑灰色を帯び、これは緑泥石を多く含むためと推定される。 138.00~138.30m 割れ目の一部は砂状化し、厚1~2m/mの灰白色粘土を脈状に伴うことがある。 138.75m 80°割れ目に厚さ1m/m方解石脈はさむ。この脈は138.67m・38°割れ目で切られている。 139.67m 75°割れ目の一部が厚さ5m/m程度砂状化。 139.87~140.04m 30°と80°割れ目が細かく交差し、φ5~10m/m細礫状~粗粒砂状に砕けている。粘土は殆んど伴わない。</p>
<p>140.04~145.65m間は厚さ10cmを超える砂礫状風化部は分布しないが、割れ目ぞいに厚さ1~5m/m程度にφ1~3m/mlに砂状~片状化する割れ目を多く含む。 割れ目は密着度の低い「ゆる割れ目」が開口化したものが多い。粘土を伴う割れ目はわずか。</p>
<p>141.10~141.18m 40°割れ目ぞい砂状化、φ5~10m/m硬質岩片(硬さ「C」)も多く残留している。</p>



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
179, 180	<ul style="list-style-type: none"> 一部割れ目沿いで砂状~礫状を呈し、粘土を挟み込むが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 色調、鉱物脈、割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。 138.75mで「割れ目に切られている」との記載については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
F	<ul style="list-style-type: none"> “地質名”欄に基づき、花崗斑岩とその深度区間を記載。

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層位 (m)	層厚 (m)	層名	備考	心線	割れ目 傾斜	細区分				R	Q	D (%)	備考
						細区分	細区分	細区分	細区分				
141	0.5												
142	0.5												
143	0.5												
144	0.5												
145	0.5												

記事内容
141.96~142.23m 互いにほぼ直交する60°系と30°系の割れ目が細かく交差し、φ5~10m/m主体に細片化している。岩片自身は硬さ「C」と硬質で一部厚さ1~2m/m程度に砂状化。粘土は伴わない。
142.91m~144.90m 割れ目間隔は上下位に比べやや広がるが、密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を多く含む。
143.57m~143.70m 上端60°、下端70°割れ目ぞいに緑泥石化強く、緑灰色を呈する。粘土化は殆んど伴わないが、φ0.5m/m以下の微細な黄鉄鉱と60°、厚さ5~10m/m石英を脈状に伴う。

層位 (m)	層厚 (m)	層名	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	備考
140				花崗斑岩	100	5	0			130.79~131.79m ・割れ目沿いに、砂状化している。 133.75~134.23m ・アプライトである。 ●133.75~133.92m ・破砕部である。カタクレサイトからなる ・明緑灰色の粘土状～緑灰色の硬質粘土～緑 ・灰～オリブ灰色の粘土質土層を呈す。 ・明緑灰色粘土：累計厚1mm ・走向・傾斜はN14°E72°である。 ・傾斜は45°である。 ・上層境界の傾斜は45°、下層境界の傾斜は 50°である。 ●134.15~134.23m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・オリブ灰～暗オリブ灰色の粘土状～オリ ・ブ灰色の粘土質土層を呈す。 ・オリブ灰～暗オリブ灰色粘土：累計厚 20mm ・走向・傾斜はN14°E67°Eである。 ・傾斜は75°である。 ・上層境界の傾斜は75°である。 134.23~136.54m ・石層状である。 135.34~143.65m ・割れ目が多く、岩片状～一部砂状を呈す。 136.54~136.54m ・明緑灰色の塊状を呈す。 136.56~160.00m ・不層理状である。 141.96~142.23m ・割れ目が細かく交差し、細片化している。 145.65~148.26m ・砂層～硬質砂状を呈す。 ・一部灰白～明緑灰色の粘土層を挟む。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
181	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが、直線性や連続性に乏しいことから削除。
182	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
183	<ul style="list-style-type: none"> ・色調、鉱物の晶出、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標高 145 (m)	深度 (m)	境界 地層 位置	地層名	細区分						RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	破砕区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				割れ目状態	土の割れ目	風化	黄	赤	黒					
0.5	145.65			20割れ目	✓	✓	✓	✓	✓	3	184	145.65~148.26m: D 大半が割れ目ぞいに風化が拡大し、締った砂状を呈し、φ5~20m/mで残留する岩片も含め、砂礫状~礫質砂状を呈する、一部で少量ながら灰白色~暗緑灰色粘土が脈状に分布。		
0.5	146.00			20割れ目	✓	✓	✓	✓	3	185	145.74~146.00m, 146.91~147.50mは硬さ「D」主体の、147.81~148.01mは硬さ「C」の各々、中石的に分布			
0.5	146.91			20割れ目	✓	✓	✓	✓	3	186	146.65~146.91m 深度と共に残留する岩片量が増加する 146.91~147.50m 硬さ「D」岩片主体であるが割れ目ぞいに砂状化が進む部分も含む。			
0.5	147.81			20割れ目	✓	✓	✓	✓	3	187	147.65m 55° 割れ目に厚さ1~2m/m暗緑灰色緑泥石脈はさむ。砂状~シルト状化している。			
0.5	148.01			20割れ目	✓	✓	✓	✓	3	188	147.81~148.01m 硬さ「C」と硬質で残留。割れ目は多いが挟在物は分布しない。			

記事内容
145.65~148.26m: D 大半が割れ目ぞいに風化が拡大し、締った砂状を呈し、φ5~20m/mで残留する岩片も含め、砂礫状~礫質砂状を呈する、一部で少量ながら灰白色~暗緑灰色粘土が脈状に分布。
145.74~146.00m, 146.91~147.50mは硬さ「D」主体の、147.81~148.01mは硬さ「C」の各々、中石的に分布
146.65~146.91m 深度と共に残留する岩片量が増加する 146.91~147.50m 硬さ「D」岩片主体であるが割れ目ぞいに砂状化が進む部分も含む。
147.65m 55° 割れ目に厚さ1~2m/m暗緑灰色緑泥石脈はさむ。砂状~シルト状化している。
147.81~148.01m 硬さ「C」と硬質で残留。割れ目は多いが挟在物は分布しない。

標高 尺	深度 m	柱状 m	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
						100	6	0			<ul style="list-style-type: none"> ・暗緑灰色の粘土~緑灰色の硬質粘土~緑灰~オリーブ灰色の粘土混じり礫状を呈す。 ・暗緑灰色粘土: 累計厚1mm ・走向・傾斜は50° E 25°である。 ・傾斜は45°である。 ・上邊境界の傾斜は45°、下邊境界の傾斜は50°である。 ・134.15~134.23m ・硬質砂である。 ・工断層センスである。 ・オリーブ灰~暗オリーブ灰色の粘土状~オリーブ灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・オリーブ灰~暗オリーブ灰色粘土: 累計厚20mm ・走向・傾斜は60° E 67° Eである。 ・傾斜は75°である。 ・上邊境界の傾斜は75°である。 ・134.23~136.54m ・花崗岩である。 ・135.24~145.65m ・割れ目が多く、岩片状~一部砂状を呈する。 ・135.54~136.54m ・暗緑灰色の礫状を呈する。 ・136.56~160.00m ・花崗岩である。 ・141.96~142.23m ・割れ目が細かく交差し、鱗片化している。
						100	3	0			
						100	2	0			
						100	4	0			
						100	6	0			
						100	5	0			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
184	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・砂礫状部中の岩片の粒径については、補足的なものであるため削除。
185	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・岩片の量については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
186	<ul style="list-style-type: none"> ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
187	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深尺 (m)	深層 (m)	岩種	岩色	岩質	岩層	岩厚	岩色	岩質	岩層	岩厚	細区分		R	Q	D	記事	
											細区分	細区分					
148.26	149.19												188				
148.68	148.84												189				
149.19	149.67												190				
149.67	150.22												191				
150.22	150.52												192				

記事内容
148.26～149.19m: CL 上端55°、下端50°の両者ほぼ同方向に割れ目で囲まれる。
148.68m 50°、厚1～3m/m暗緑灰色砂状～シルト状の緑泥石脈をはさむ。 同脈は微細(φ0.1m/m)のセリサイトを少量伴う。 148.84m以深、割れ目ぞいに厚1～2m/mで砂状化する部分がある。
149.19～149.67m: D 割れ目ぞいに風化が拡大し締った砂状を呈する。岩片はφ10m/m前後の硬さ「C」で残留し、砂礫状を呈する。 粘土はわずかであるが、灰白色粘土が点在する。 下端の149.69mは40°、厚さ1m/m暗緑灰色の砂状～シルト状で緑泥石脈はさむ。
149.67～150.22m: CL 硬さ「C」と「D」の岩片からなる。 149.67～150.22mは硬さCで割れ目の一部に砂などはさむ
150.22～150.52m 上下よりも変質し硬さ「D」に軟化している。 下端の150.52mは48°、幅1～2m/mで砂～シルト状の緑泥石脈、微細な黄鉄鉱を伴う。
150.52～152.10m 硬さCで、一部で割れ目ぞいに風化するが概ね風化は弱く、割れ目挟在物も殆んど分布しない。 150.52m以深は岩芯にφ1～3m/m暗緑灰色斑点が点在したり割れ目の面が緑灰色化するなど緑泥石化が認められるが粘土化などの劣化はない。 151.40～151.60m 割れ目が密集し、φ10m/m程度の岩片状コア化している。 割れ目の面の大半は挟在物が付着していない。

深尺 (m)	深層 (m)	岩種	岩色	岩質	岩層	岩厚	岩色	岩質	岩層	岩厚	R	Q	D	記事
148.26	149.19										100	6	0	・明緑灰色の粘土状～緑灰色の硬質粘土～緑 灰～オリブ灰色の粘土混じり層状を呈す。 ・厚緑灰色粘土：累計厚1mm ・走向：傾斜は30°Eである。 ・傾斜は45°である。 ・上層境界の傾斜は45°、下層境界の傾斜は 50°である。 ・134.15～134.23m ・硬結層である。 ・工断層センスである。 ・オリブ灰～暗オリブ灰色の粘土状～オリ ブ灰色の粘土混じり層状を呈する。 ・オリブ灰～暗オリブ灰色粘土：累計厚 20mm ・走向：傾斜は10°E67°Eである。 ・傾斜は75°である。 ・上層境界の傾斜は75°である。 134.23～136.54m ・花崗岩である。 135.24～145.65m ・割れ目が多く、岩片状～一部砂状を呈す する。 135.54～136.56m ・暗緑灰色の礫状を呈する。 136.56～160.00m ・花崗岩である。 141.95～142.23m ・割れ目が随分交差し、離片化している。 145.65～149.26m ・砂礫～硬砂状を呈する。 ・一部白～暗緑灰色の粘土脈を挟む。 149.19～149.67m ・砂礫状を呈する。 ・灰白色粘土が点在する。
148.68	148.84										100	3	0	
149.19	149.67										100	2	0	
149.67	150.22										100	4	0	
150.22	150.52										100	6	0	
150.52	152.10										100	5	0	
152.10	152.10													
152.10	152.10													
152.10	152.10													
152.10	152.10													

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
188	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
189	<ul style="list-style-type: none"> ・鉱物脈、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・148.84～149.19mの割れ目沿いで砂状化するが、連続性に乏しいことから削除。
190	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
191, 192	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・149.67～150.22mの一部割れ目沿いに砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉱物脈、鉱物の晶出、挟在物の有無、色調については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層位 (m)	層厚 (m)	層名	地層区分	地質記号	細区分		RQD	最大コア長 (cm)	最大コア径 (cm)	最大コア断面積 (cm ²)	記事内容
					岩種	岩質					
152.10	0.10	破砕帯	Hj	CL	100	4	0				193 ●152.10~152.15m: 破砕帯(主せん断面152.11m)
152.11	0.10	砂質粘土	Hc-2	CL	100	5	0				194 ●152.11m:Hc-2
152.11	0.10	砂質粘土	Hj	CL	100	5	0				195 ●152.11~152.15m:Hj
152.15	0.10	砂質粘土	CL	CL	100	5	0				196 ●152.15~153.59m:CL

記事内容	
193	●152.10~152.15m: 破砕帯(主せん断面152.11m) 152.10~152.11m:Hj 上端45°、下端68°でいずれも直線的に連続。主せん断面と直交する割れ目が多く、φ5~10m/mに硬さ「D」で岩片化。 色調はにぶい橙(5YR 6/3)、厚さ15m/m
194	152.11m:Hc-2 68°で上下端とも直線的に連続。φ1~2m/mの石英粒、岩片を約20%程度含む軟質粘土(カウジ)。厚さ1m/m。暗緑灰色。
195	152.11~152.15m:Hj 上端68°で直線的に、下端55°で波打って連続。φ3~5m/m岩片主体(一部φ10m/m)。岩片間は砂状化~粘土化した「砂・粘土混じり岩片状」を呈する。色調は緑灰(10GY 5/1)~明褐灰(7.5YR 7/2)、厚さ20~50m/m
196	152.15~153.59m:CL 風化で全体が硬さ「C」。割れ目が多く、152.51以深では互いに交差する割れ目でφ10~20m/m程度の岩片が主体。 割れ目の一部に砂を1m/m程度はさむことがある。153.30~153.47m緑泥石が進み、一部の割れ目~岩芯は暗緑灰色化する。 153.59~154.53m:D 風化で割れ目ごとに砂状化が拡大。岩片ごとの割れ目は残留する。154.00m以深では硬さ「C」「D」岩片と締った砂状部からなり「砂礫状」を呈する。 154.00mで浅は岩片量が多い。 153.60~153.76mは緑泥石化が著しい。粘土化は伴わないが赤褐色の褐鉄鉱やφ0.1m/mセリサイトを伴う。

層位 (m)	層厚 (m)	層名	地層区分	地質記号	RQD (%)	最大コア長 (cm)	最大コア径 (cm)	最大コア断面積 (cm ²)	記事
152.10	0.10	破砕帯	Hj	CL	100	4	0		●152.10~152.15m ・破砕帯である。 ・砂質粘土状~にぶい橙~緑灰~明緑灰色の砂・粘土混じり礫状を呈する。 ・砂質粘土。異計厚5mm ・傾斜は68°である。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は68°である。
152.11	0.10	砂質粘土	Hc-2	CL	100	5	0		
152.11	0.10	砂質粘土	Hj	CL	100	5	0		
152.15	0.10	砂質粘土	CL	CL	100	5	0		●154.00~154.71m ・破砕帯である。 ・正断層センスである。 ・褐灰~灰褐色の粘土状~明緑灰~緑灰~灰褐色の硬質粘土状~にぶい橙~明緑灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・異計厚5mm ・傾斜は63°である。 ・下端境界の傾斜は65°~80°である。 157.09~160.00m ・割れ目沿いの緑泥石化が著しい。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
193~195	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の見直し(砂・粘土混じり岩片状→砂・粘土混じり礫状) ・φ1~2mmの石英粒、岩片を約20%程度含むとの記載に基づき砂質粘土状と記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
196	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・152.15~153.59mの一部割れ目沿いで砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・色調、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の残留の程度や岩片の量については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・154.00~154.53mで砂礫状を呈するが、劣化に系統性が認められないことから削除。

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

寸法 (m)	深さ (m)	層位 (m)	層名	心層地	傾斜	細区分		R	Q	D	最大コア長 (cm)	採取率 (%)	記事	
						岩種	岩級							
154.53	154.58	154.71	154.88	154.99	155.00	155.00	155.00	155.00	155.00	155.00	155.00	155.00	155.00	155.00

基盤岩コア観察カード
肥前・破砕性状・詳細スケッチ等

197 ●154.53～154.71m: 破砕帯(主せん断面154.58m)
198 ●154.58～154.71m: Hb
199 ●154.58～154.71m: Hc-1
200 ●154.58～154.71m: Hj
201 ●154.71～155.00m: D
202 ●155.00～162.00m(孔底): CL

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
197 ●154.53～154.71m: 破砕帯(主せん断面154.58m) 154.53～154.58m: Hb 上端63°、下端36°でいずれも波打って連続。φ2～3m/m石英粒、φ3～10m/m粘土化～硬さ「D」岩片20～30%含む軟質な「礫質粘土状」呈する。中央の緑灰色粘土は軟弱。色調は上端・明緑灰(5G 7/1)、中央・緑灰(5G 5/1)、下端・灰褐(5YR 6/2)の縞状、厚さ40～50m/m
198 ●154.58～154.71m: Hc-1 36°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1～2m/m石英粒をわずか(5%以内)に含む軟質粘土(ガウジ)。色調は上下端側が褐灰(7.5YR 6/1)、中央が灰赤(2.5YR 6/2)の縞状を呈する。厚さ5m/m。
199 ●154.58～154.71m: Hj 上端は36°で直線的、下端は65～70°で湾曲しながら連続。50～70°とこれに斜交する割れ目が多く、φ3～5m/mに細かく片状化。岩片間には幅1～3m/mの明緑灰～緑灰色の軟質粘土脈が、またわずかに幅1m/mの軟質灰白色粘土脈が分布。全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR 7/4)～明緑灰(10G 7/1)、厚さ5m/m
200 ●154.71～155.00m: D 軟化著しいが、割れ目は残留する
201 ●155.00～162.00m(孔底): CL 割れ目ぞいは暗緑灰色の緑泥石化が進む。 特に、157.89～160.00mでは緑泥石化が著しく色調が緑灰色を呈し、厚さ2～20m/mで砂～シルト状化する部分も認められる。
202

申請書用柱状図

標尺	高度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	最大コア長 (cm)	記事
			花崗斑岩	CL	100	4	0					●152.10～152.15m ・破砕帯である ・砂質粘土状～にぶい橙～緑灰～明緑灰色の砂・粘土混じり縞状を呈する。 ・砂質粘土・累計厚5mm ・傾斜は65°である。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は65°である。 ●154.53～154.71m ・破砕帯である。 ・下断面センスである。 ・褐灰～灰赤色の粘土状～明緑灰～緑灰～灰褐色の縞状粘土状～にぶい橙～明緑灰色の粘土混じり縞状を呈する。 ・砂質粘土・累計厚5mm ・傾斜は36°である。 ・上盤境界の傾斜は63°、下盤境界の傾斜は65°～80°である。 157.89～160.00m ・割れ目ぞいの緑泥石化が著しい。
			花崗斑岩	CL	100	5	0					
			花崗斑岩	CL	100	7	0					
			花崗斑岩	D	100	4	0					
			花崗斑岩	D	100	5	0					
			花崗斑岩	CL	100	5	0					
			花崗斑岩	CL	100	2	0					
			花崗斑岩	CL	100	4	0					
			花崗斑岩	CL	100	3	0					
			花崗斑岩	CL	100	5	0					

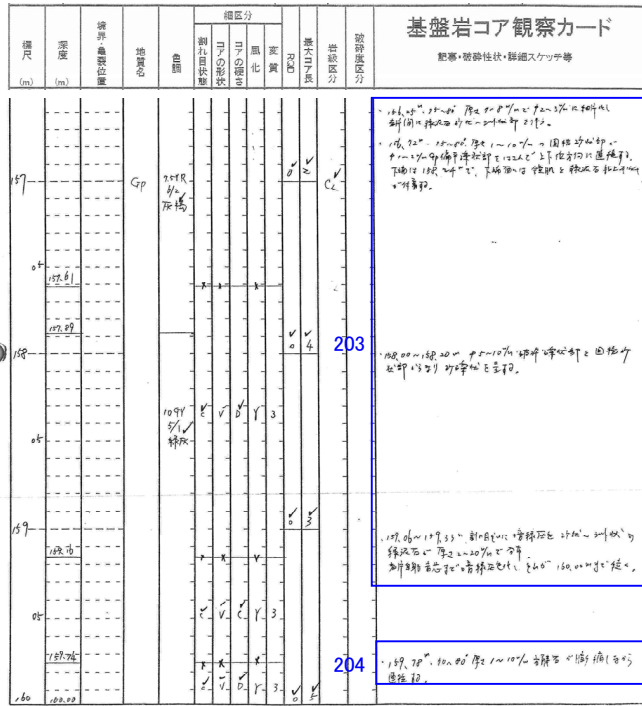
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
197～200	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 下盤境界の傾斜65°～70°→65°～80° ※1 ※4 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 縞状模様については、色調で示していることから削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
201	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
202	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 一部で砂～シルトを挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容	
156.25m 75~80° 厚さ7~8m/mでφ2~3m/mに細片化し、岩片間に緑泥石化~シルト状部を伴う。 156.72m 75~80°、厚さ1~10m/mの固結砂状部がφ1~2m/mGp偏平礫状部をはさんで上下位方向に連続する。 下端は158.24mで、下端面には鏡肌と緑泥石粘土フィルムが付着する。	203
158.00~158.20m φ5~10m/m破碎礫状部と固結砂状部からなり砂礫状を呈する。	203
159.06~159.33m 割れ目ぞいに暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石が厚さ2~20m/mで分布。 岩片自身も岩芯まで暗緑灰色化し、それが160.00mまで続く。	203
159.78m 70~80° 厚さ1~10m/m方解石が膨縮しながら連続する。	204

標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	岩紋区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	最大コア長 (cm)	記事
156.25	75~80°	+	CL'	100	4	0					●152.10~152.15m ・凝結部である。 ・砂質粘土状~にふいご~凝灰~明褐色の砂・粘土混じり礫状を呈する。 ・砂質粘土 高径厚5mm ・傾斜は60°である。 ・上層境界の傾斜は45°、下層境界の傾斜は55°である。 ●154.53~154.71m ・凝結部である。 ・正断層センスである。 ・凝灰~灰黄色の粘土状~明緑灰~緑灰~灰褐色の硬質粘土状~にふいご~明緑灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・傾斜は30°である。 ・上層境界の傾斜は63°、下層境界の傾斜は55°である。 ●157.09~160.00m ・割れ目ぞいの緑泥石が著しい。
156.72	75~80°	+	CL'	100	5	0					
156.72	75~80°	+	CL'	100	7	0					
156.72	75~80°	+	CL'	100	4	0					
156.72	75~80°	+	D'	100	5	0					
156.72	75~80°	+	D'	100	5	0					
156.72	75~80°	+	D'	100	2	0					
156.72	75~80°	+	D'	100	4	0					
156.72	75~80°	+	D'	100	3	0					
156.72	75~80°	+	D'	100	5	0					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
203	<ul style="list-style-type: none"> 156.25mに砂~シルトを挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 156.72mで固結砂状を呈するが、直線性に乏しいことから削除。 158.00~158.20mで砂礫状を呈するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 159.06~159.33mで砂~シルト状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 色調については、補足的なものであるため削除。
204	<ul style="list-style-type: none"> 鉱物脈については、補足的なものであるため削除。

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	層名	地層	色調	細区分				備考	備考	備考
					割れ目状態	コアの形状	風化	変質			
161.80	161.80										
161.81	161.81										
161.82	161.82										
161.83	161.83										
161.84	161.84										
161.85	161.85										
161.86	161.86										
161.87	161.87										
161.88	161.88										
161.89	161.89										
161.90	161.90										

基盤岩コア観察カード

記号・破砕性状・詳細スケッチ等

160.00~161.68m 緑泥石化は弱くなり、一部の割れ目が浅緑灰色化する程度であるが砂状～シルト状化を伴う。

160.81m 70° 厚さ5m/m白色鉱物脈(方解石)が分布し、その上端と下端に厚さ1~3m/m固結砂状化した緑泥石を伴う。

160.98~161.81mはφ5~30m/mの岩片に砕けて採取されている。各岩片のうち、一部には砂や粘土の薄層が付着することがある。

161.68m以深は割れ目ぞいに暗緑灰色の緑泥石化。割れ目には緑泥石の砂～粘土がフィルム状に付着することが多い。全体にφ10~30m/mと細かく砕けているが、岩片の硬さは「C」と硬質のものが主体。(孔底)

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
160.00~161.68m 緑泥石化は弱くなり、一部の割れ目が浅緑灰色化する程度であるが砂状～シルト状化を伴う。
160.81m 70° 厚さ5m/m白色鉱物脈(方解石)が分布し、その上端と下端に厚さ1~3m/m固結砂状化した緑泥石を伴う。
160.98~161.81mはφ5~30m/mの岩片に砕けて採取されている。各岩片のうち、一部には砂や粘土の薄層が付着することがある。
161.68m以深は割れ目ぞいに暗緑灰色の緑泥石化。割れ目には緑泥石の砂～粘土がフィルム状に付着することが多い。全体にφ10~30m/mと細かく砕けているが、岩片の硬さは「C」と硬質のものが主体。(孔底)

申請書用柱状図

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)				記事
										R	Q	D	計	
				花崗岩		D	100	5	0					・砂質粘土、累計厚1mm ・傾斜は65°である。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は55°である。 ・φ15.5~154.7mm ・破砕部である。 ・正断面センスである。 ・緑泥～灰赤色の粘土状～暗緑～暗緑色の硬質粘土質～細かい粒～明緑灰色の粘土混じり層状を呈する。 ・緑泥～灰赤色粘土：累計厚5mm ・傾斜は35°である。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は65°~80°である。 157.89~160.00m ・割れ目ぞいの緑泥石化が著しい。
				花崗岩		D	100	5	0					
				花崗岩		D	100	2	0					
				花崗岩		CL	100	4	0					
				花崗岩		CL	100	3	0					
				花崗岩		CL	100	5	0					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
205	・余掘り深度分のため削除。

H27-B-3

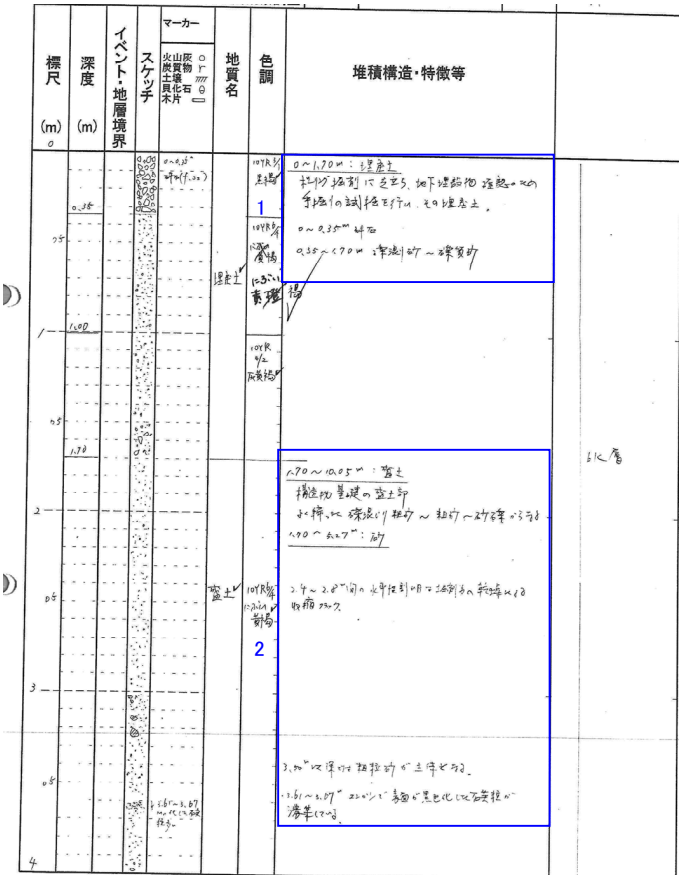
余白

H27-B-3

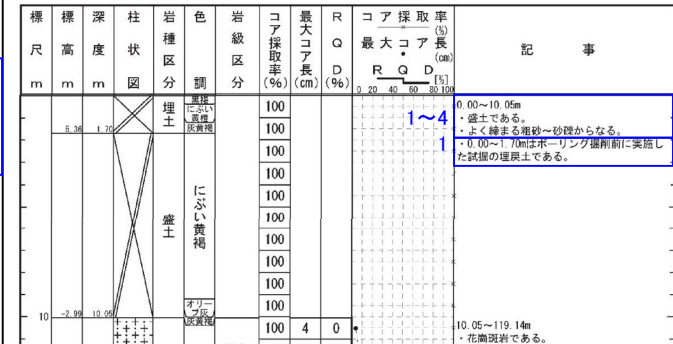
コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容	
1	<p>0~1.70m:埋戻土 ボーリング掘削に先立ち、地下埋設物確認のため手掘りの試掘を行い、その埋戻土。 0~0.35m 砕石 0.35~1.70m 礫混り砂~礫質砂</p>
2	<p>1.70~10.05m:盛土 構造物基礎の盛土部 よく締った礫混じり粗砂~粗砂~砂礫からなる 1.70~5.27m:砂 2.4~2.8m間の水平性割れ目は掘削後の乾燥による収縮クラック。 3.50m以深では粗粒砂が主体となる。 3.61~3.67mマンガで表面が黒色化した石英粒が濃集している。</p>



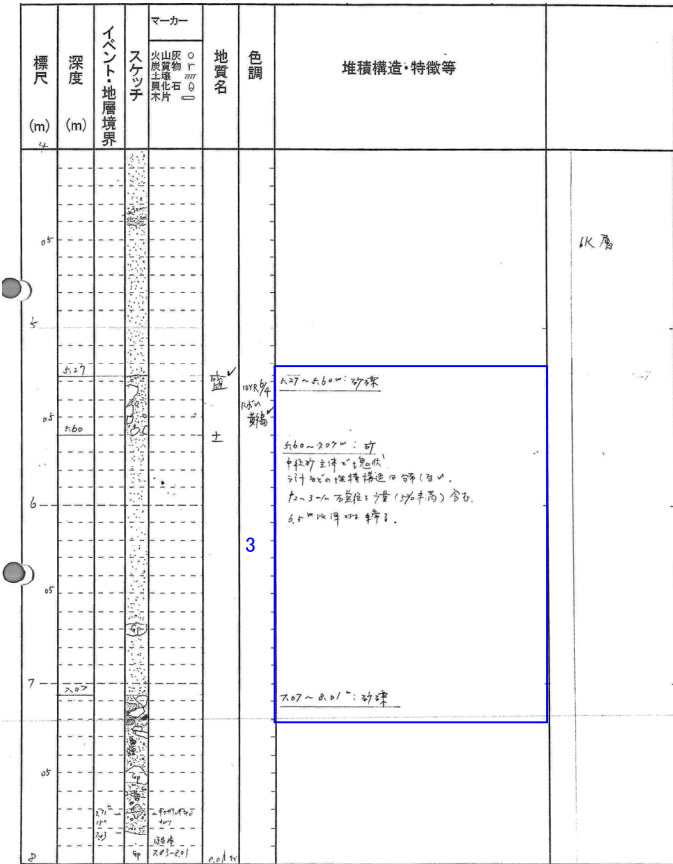
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
1~4	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・当該ボーリングの土質区間は、一連が人工層からなるが、土質構成として、良く締まる粗砂~砂礫からなるまとめ書き。

H27-B-3

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



スケッチ: 礫はクサリ● 半クサリ◐ 硬質○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アブライトAp 等
境界 明瞭—— 不明瞭--- 亀裂は赤線, 角度, 条線等

記事内容
5.27~5.60m: 砂礫 5.60~7.07m: 砂 中粒砂主体で塊状 ラミナなどの堆積構造は分布しない。 φ2~3m/m石英粒を少量(5%未満)含む。 6.5m以深では締る。 7.07~8.01m: 砂礫

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	記事
		5.27		埋土	にふい黄褐		100					1~4		0.00~10.05m ・盛土である。 ・よく締まる粗砂~砂礫からなる。 ・0.00~1.70mはボーリング掘削前に実施した試験の埋戻土である。
		7.07		埋土	にふい黄褐		100							
		8.01		埋土	にふい黄褐		100							
		10.05		埋土	にふい黄褐		100	4	0					10.05~119.14m ・花崗斑岩である。

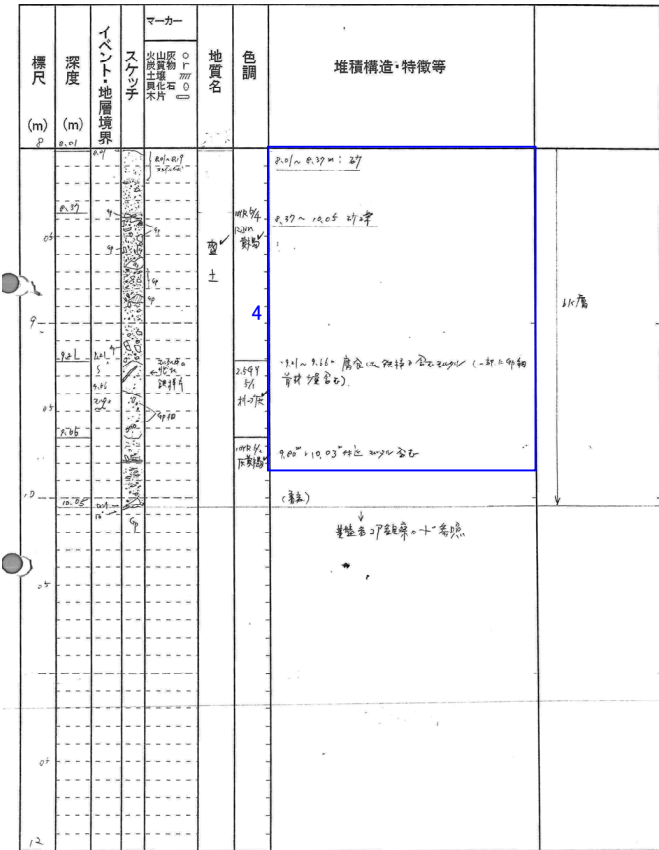
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
1~4	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・当該ボーリングの土質区間は、一連が人工層からなるが、土質構成として、良く締まる粗砂~砂礫からなるとまとめ書き。

H27-B-3

コア観察カード (H27年8月)

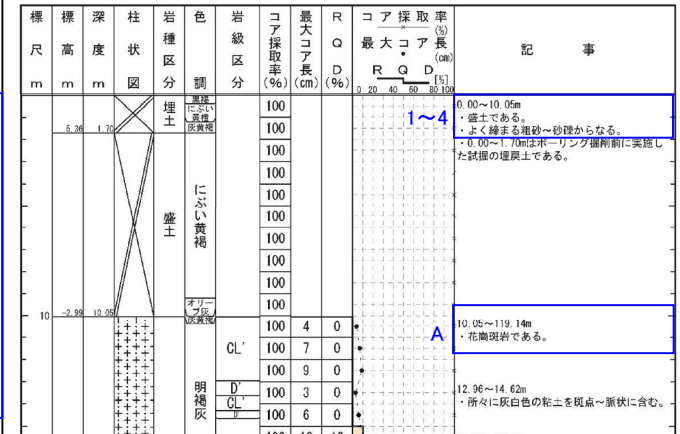
コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アブライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - -
亀裂は赤線, 角度, 索線等

記事内容
8.01~8.37m: 砂
8.37~10.05 砂礫
9.21~9.66m 腐食した鉄棒を含むモルタル(一部にGp細骨材少量含む)
9.80mと10.03m付近モルタル含む
(着岩)



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
1~4	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・当該ボーリングの土質区間は、一連が人工層からなるが、土質構成として、良く締まる粗砂~砂礫からなるまとめ書き。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・“地質名”欄に基づき、花崗斑岩とその深度区間を記載。

H27-B-3

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 / 0 (m)	深度 (m)	接合位置	地質名	色調	細区分				RQD	岩級区分	記事内容
					割れ目形状	割れ目の向き	風化	変質			
10.05										5 φ1~3m/m石英、長石を斑晶とする花崗斑岩(Gp)。長石は白濁化することが多い。	
0.5										6 10.05~12.96m: CL 硬さ「C」主体で上端側の10.05~11.20mと中央部の11.82~12.00mは風化が進んだ硬さ「D」である。 硬さ「C」区間の一部で割れ目に挟在物を含まない部分があるが多くは風化により砂や変質粘土を脈状に挟んでいる。 長石は多くが白濁化している。	
1.1										7 10.70~10.80mに硬さ「C」の硬質岩片が残留する。 11.20~11.82m 硬さ「C」主体で挟在物も少ない。 一部で密着度の低い割れ目を含んでいる。 11.40~11.55m 割れ目が交差し岩片化するが劣化は伴わない。 11.82~12.00m 上下位よりも軟化する。 下端部の11.97~12.00mは粘土化が進んでいる。 12.00~12.96m 硬さ「C」主体であるが、割れ目ぞい厚さ1m/m程度と薄く砂状化することが多い。 また、各割れ目は軽度マンガン鉱染受け、面の一部は黒褐色化する。	
11.20											
0.5											
11.82											
0.5											
12.00											
0.5											

記事内容
5 φ1~3m/m石英、長石を斑晶とする花崗斑岩(Gp)。長石は白濁化することが多い。
6 10.05~12.96m: CL 硬さ「C」主体で上端側の10.05~11.20mと中央部の11.82~12.00mは風化が進んだ硬さ「D」である。 硬さ「C」区間の一部で割れ目に挟在物を含まない部分があるが多くは風化により砂や変質粘土を脈状に挟んでいる。 長石は多くが白濁化している。
7 10.70~10.80mに硬さ「C」の硬質岩片が残留する。 11.20~11.82m 硬さ「C」主体で挟在物も少ない。 一部で密着度の低い割れ目を含んでいる。 11.40~11.55m 割れ目が交差し岩片化するが劣化は伴わない。 11.82~12.00m 上下位よりも軟化する。 下端部の11.97~12.00mは粘土化が進んでいる。 12.00~12.96m 硬さ「C」主体であるが、割れ目ぞい厚さ1m/m程度と薄く砂状化することが多い。 また、各割れ目は軽度マンガン鉱染受け、面の一部は黒褐色化する。

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	記事			
m	m	m										0	20	40	60	80	100
		10				CL	100	4	0					10.05~119.14m ・花崗斑岩である。			
						D	100	7	0					12.96~14.62m ・所々に灰白色の粘土を斑晶~脈状に含む。			
						CL	100	9	0					15.33~15.43m ・軟質化著しい。			
						CL	100	10	10					18.05~18.47m ・珪質化している。			
						CL	100	8	0					20.04~20.93m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。			
						CM	100	14	24								

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
5	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
6	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の挟在物については、補足的なものであるため削除。 ・一部に砂や粘土を挟在するが、系統的でなく連続性に乏しいことから削除。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
7	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・挟在物の有無、割れ目の密着状態、マンガン、割れ目の色調については、補足的なものであるため削除。 ・11.97~12.00mで粘土化が進んでいるが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・12.00~12.96mで割れ目沿いに砂状化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-3

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 位置	地層 名	割れ目 性状	割れ目 性状			最大 コア長 (cm)	RQD (%)	試験 区分	試験 区分	基盤岩コア観察カード 記号・硬さ・割れ目・試験スケッチ等
					割れ目 性状	割れ目 性状	割れ目 性状					
0.5	13.96		明礬灰									
0.5	14.62											12.96~14.62m: D, CL 上端側と下端側はD級、中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」であるが岩組織や割れ目は残留しているが全体に締った砂状化が進み、処々灰白色の粘土をφ5m/m前後の斑点状~幅1~3m/mの脈状に含んでいる。
0.5	14.30											13.64~14.30mは硬さ「C」岩片主体で20~40°の密着度の低い割れ目が同方向に1~2cm間隔で分布。 14.22m 43° 幅1m/m軟質黄褐色粘土をはさむ割れ目(sj) 交差する80° 幅1m/m石英脈を切っている(変位量7m/m, 右ズレ) 14.30~14.62mは上端17° 幅1~5m/m軟質赤灰色粘土。 下端50° 割れ目で囲まれ著しく軟化しているが、一部に硬さ「D」も残留。 岩組織や割れ目はわずかに残留している。 処々に幅1~2m/mの軟質灰白色粘土を脈状に含んでいる。
0.5	20.04											14.62~20.04m: CL 20~40° 割れ目主体で、割れ目ぞいに風化で砂状化が拡大している部分も含んでいる。

記事内容	
8	12.96~14.62m: D, CL 上端側と下端側はD級、中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」であるが岩組織や割れ目は残留しているが全体に締った砂状化が進み、処々灰白色の粘土をφ5m/m前後の斑点状~幅1~3m/mの脈状に含んでいる。
9	13.64~14.30mは硬さ「C」岩片主体で20~40°の密着度の低い割れ目が同方向に1~2cm間隔で分布。 14.22m 43° 幅1m/m軟質黄褐色粘土をはさむ割れ目(sj) 交差する80° 幅1m/m石英脈を切っている(変位量7m/m, 右ズレ) 14.30~14.62mは上端17° 幅1~5m/m軟質赤灰色粘土。 下端50° 割れ目で囲まれ著しく軟化しているが、一部に硬さ「D」も残留。 岩組織や割れ目はわずかに残留している。 処々に幅1~2m/mの軟質灰白色粘土を脈状に含んでいる。
10	14.62~20.04m: CL 20~40° 割れ目主体で、割れ目ぞいに風化で砂状化が拡大している部分も含んでいる。

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)				記事
											R	Q	D	ES	
10	13.96		明礬灰		CL	100	4	0							10.05~119.14m ・花崗斑岩である。
	14.62		明礬灰		D	100	7	0							12.96~14.62m ・所々に灰白色の粘土を斑点~脈状に含む。
	14.30		明礬灰		CL	100	3	0							15.33~15.43m ・軟質化著しい。
	14.62		明礬灰		CL	100	10	10							18.05~18.47m ・珪質化している。
	20.04		明礬灰		CM	100	9	0							20.04~20.93m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
8	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであることから削除。 ・全体に砂状化が進んでいるが、砂状化部の連続性に乏しいことから削除。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟や割れ目の発達の状態については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。 ・14.22mに粘土を挟在し、石英脈を切っているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・14.30~14.62mに粘土を挟在するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが、直線性や連続性に乏しいことから削除。

H27-B-3

コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	地質記号	地質記号	細区分				風化	CO ₂	基岩大割れ目	破砕度区分	記事
				割れ目の形状	割れ目の長さ	割れ目の傾斜	割れ目の密度					
0.5	16.49			√	√	0	2			11	上端側の16.49m以浅は硬さ「D」主体、16.49m以深は硬さ「C」主体である。	
16	15.33			√	√	0	3			12	15.33~15.43m 風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。	
17	15.73			√	√	0	2			13	15.73~15.80m 80°割れ目ぞい薄くマンガン鉱染を受ける。 16.31m 50°割れ目ぞい幅5~15m/m半固結状 白色シルト~粘土はさむ。 16.49m 35°割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含んでいる。 16.76~16.87m φ10~20m/mの岩片状呈する。岩片間は幅1~2m/m程度砂状化。	

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
11 上端側の16.49m以浅は硬さ「D」主体、16.49m以深は硬さ「C」主体である。
12 15.33~15.43m 風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。
13 15.73~15.80m 80°割れ目ぞい薄くマンガン鉱染を受ける。 16.31m 50°割れ目ぞい幅5~15m/m半固結状 白色シルト~粘土はさむ。 16.49m 35°割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含んでいる。 16.76~16.87m φ10~20m/mの岩片状呈する。岩片間は幅1~2m/m程度砂状化。

申請書用柱状図

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	コア採取率(%)				記事									
									R	Q	D	最大コア長(cm)										
20			+	明徳灰	D	GL	100	3	0	0	0	0	0	12.96~14.62m 所々に灰白色の粘土を斑状に含む。								
															15.33~15.43m 軟化著しい。							
																18.05~18.47m 珪質化している。						
																	20.04~20.93m 硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。					
																		15.73~15.80m 80°割れ目ぞい薄くマンガン鉱染を受ける。				
																			16.31m 50°割れ目ぞい幅5~15m/m半固結状 白色シルト~粘土はさむ。			
																				16.49m 35°割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含んでいる。		
																					16.76~16.87m φ10~20m/mの岩片状呈する。岩片間は幅1~2m/m程度砂状化。	
																						16.93~17.00m 割れ目ぞい幅5~15m/m半固結状 白色シルト~粘土はさむ。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
11	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
12	・砂状化と粘土化がみられるが、いずれも直線性に乏しいことから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
13	・割れ目の傾斜、マンガン、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・16.31mにシルト~粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・16.76~16.87mで岩片状を呈し、一部で砂状を呈するが、砂状部の連続性や直線性に乏しいことから削除。

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深尺 (m)	深層 (m)	地層 番号	地層 名称	心組 番号	細区分				割れ目 径	割れ目 間隔	割れ目 形状	割れ目 方向	割れ目 長さ	割れ目 密度	割れ目 状態	割れ目 備考
					割れ目 径	割れ目 間隔	割れ目 形状	割れ目 方向								
17	17.13															
15	17.40															
16	18.05															
17	18.43															
18	19.59															

記事内容
14 17.13~17.31m 割れ目の一部に幅1~2m/mの軟質灰白色粘土をはさむ。
15 17.40~19.00m 密着度の低い風化割れ目を含む。ハンマーの打撃でこれら割れ目ぞいの一部は分離、細片化する。既に割れ目化し、開口しているものも多い。 17.85~18.00m 割れ目が交差、一部φ20~30m/mに岩片化 粘土や砂ははさまない。
16 18.05~18.47m 珪化変質により石英量多くなり硬化している。
17 18.43~20.04m 一部の割れ目ぞいや岩芯がマンガン鉱染受け、黒褐色化するが劣化は伴わない。 18.90m 50° 割れ目幅1~5m/m淡黄褐色砂はさむ。
18 19.59m 40° と80° 割れ目が交差。80° 割れ目は40° 割れ目に切られている。 80° 割れ目は19.65mで幅10m/m砂状化するが下位に向うにつれて割れ目は閉じて行き、砂の挟雑物も分布しなくなる。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長(cm)	R	Q	D	記事
					明徳灰	D'	100	3	0							12.96~14.62m 所々に灰白色の粘土を斑状に含む。
						CL'	100	6	0							15.33~15.43m 軟質化著しい。
						CL'	100	10	10							16 18.05~18.47m 珪質化している。
						CM'	100	14	24							20.04~20.93m 硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。

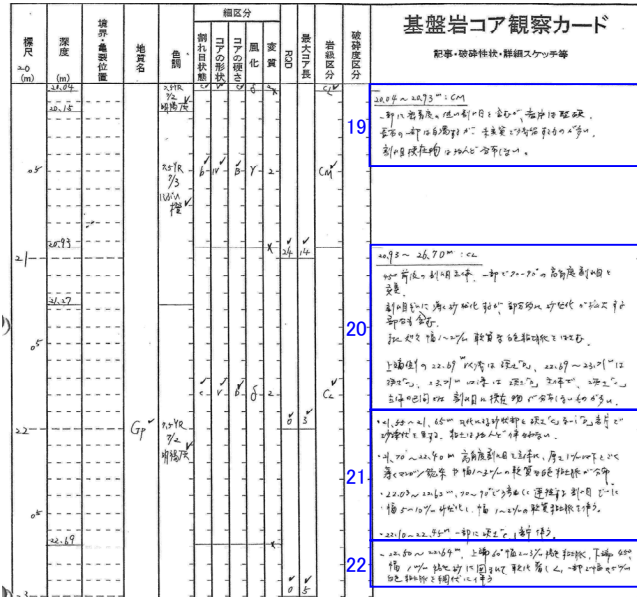
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
14	一部割れ目に粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
15	割れ目の密着状態・開口状況、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
16	鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
17	マンガン、割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。 18.90mに砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
18	割れ目沿いに砂状化し、割れ目は切られているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 19.65mで割れ目沿いに砂状化しているが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 割れ目の挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。

H27-B-3

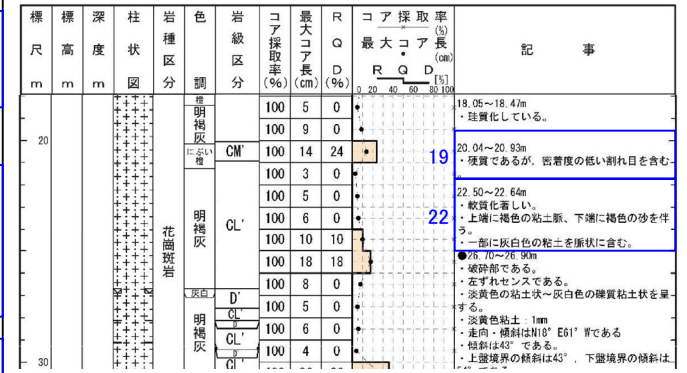
コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
20.04~20.93m: CM 一部に密着度の低い割れ目を含むが、岩片は硬硬。 長石の一部は白濁するが、未変質で残留するものが多い。 割れ目挟在物は殆ど分布しない。
20.93~26.70m: CL 45°前後の割れ目主体。一部で70~90°の高角度割れ目と交差。 割れ目ぞいに薄く砂状化するが、部分的に砂状化が拡大する部分も含む。 また処々幅1~2m/m軟質な白色粘土脈をはさむ。 上端側の22.69m以浅は硬さ「D」、22.69~23.71mは硬さ「C」、23.71m以深は硬さ「D」が主体で、硬さ「C」主体の区間では割れ目に挟在物が分布しないものが多い。
21.55~21.65m 風化による砂状部と硬さ「C」ないし「D」岩片で砂礫状を呈する。 粘土は殆んど伴わない。 21.70~22.40m 高角度割れ目を主体に、厚さ1m/m以下とごく薄くマンガン鉱染や幅1~3m/mの軟質な白色粘土脈が分布。 22.03~22.63m 70~90°で湾曲して連続する割れ目ぞいに幅5~10m/m砂状化し、幅1~2m/mの軟質粘土脈を伴う。 22.10~22.45m 一部に硬さ「C」岩片伴う。
22.50~22.64m 上端60°幅2~3m/m褐色粘土脈、下端45°幅1m/m褐色砂に囲まれて軟化著しく、一部で幅0.5m/m白色粘土脈を網状に伴う。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
19	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
20	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化し、粘土脈を挟在するが、系統的でなく、連続性や直線性に乏しいことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
21	<ul style="list-style-type: none"> ・21.55~21.65mで砂礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・一部で粘土脈を挟在するが、いずれも連続性や直線性に乏しいことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。
22	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土脈や砂の傾斜や幅については、補足的なものであるため削除。 ・表現の見直し(網状→脈状)

H27-B-3

コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	岩種	色調	柱状	岩級区分	細区分				R	Q	D	最大コア長 (cm)	R	Q	D	最大コア長 (cm)	記事
						割れ目形状	割れ目傾斜	割れ目長さ	割れ目幅									
23	0.5					✓	✓	✓	✓									22.91~23.49m 40° 前後の割れ目が同方向に分布。これらに直交~60° 斜交する60~80° 割れ目を切ることがある。 23.45~23.71mに幅1~3m/m軟質白色粘土脈をはさむ80° 割れ目が分布。 23.71~24.53は軟化し硬さ「D」主体。 23.71~23.95m 80~90° の高角度割れ目はマンガン鉱染伴う。 24.06~24.22mは硬さ「C」主体。
24	2.9					✓	✓	✓	✓									24.37m 45° 厚さ2m/m石英脈
25	4.5					✓	✓	✓	✓									24.53~26.70mは硬さ「C」主体。 上位よりも割れ目がや~少なくなる。 24.60~24.92m 80~90° 割れ目に厚1~5m/mのマンガン鉱染で黒褐色砂をはさむ。

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
23 22.91~23.49m 40° 前後の割れ目が同方向に分布。これらに直交~60° 斜交する60~80° 割れ目を切ることがある。 23.45~23.71mに幅1~3m/m軟質白色粘土脈をはさむ80° 割れ目が分布。 23.71~24.53は軟化し硬さ「D」主体。 23.71~23.95m 80~90° の高角度割れ目はマンガン鉱染伴う。 24.06~24.22mは硬さ「C」主体。
24 24.37m 45° 厚さ2m/m石英脈
25 24.53~26.70mは硬さ「C」主体。 上位よりも割れ目がや~少なくなる。 24.60~24.92m 80~90° 割れ目に厚1~5m/mのマンガン鉱染で黒褐色砂をはさむ。

申請書用柱状図

標尺 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)				記事																																																																																																																					
											R	Q	D	最大コア長 (cm)																																																																																																																						
20		+	明 視 灰	花 崗 斑 岩	D	100	5	0	0	0	0	0	0	0	0	18.05~18.47m ・珪質化している。																																																																																																																				
																	100	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20.04~20.93m ・珪質であるが、密着度の低い割れ目を含む。																																																																																																					
																																100	14	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22.50~22.64m ・軟質化著しい。 ・土層に褐色の粘土脈、下端に褐色の砂を伴う。 ・一部に灰白色の粘土を脈状に含む。																																																																																						
																																															100	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26.70~26.90m ・破砕部である。																																																																							
																																																														100	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	左ずれセンスである。 ・淡黄色の粘土状~灰白色の珪質粘土状を呈する。																																																									
																																																																												100	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	淡黄色粘土 : 1mm ・走向・傾斜はN10° E61° Wである ・傾斜は43° である。 ・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は																																											
																																																																																										100	18	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																												
																																																																																																									100	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0														
																																																																																																																							100	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																							

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
23	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・割れ目を切るとの記載については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・23.45~23.71mに粘土脈を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
24	<ul style="list-style-type: none"> ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
25	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

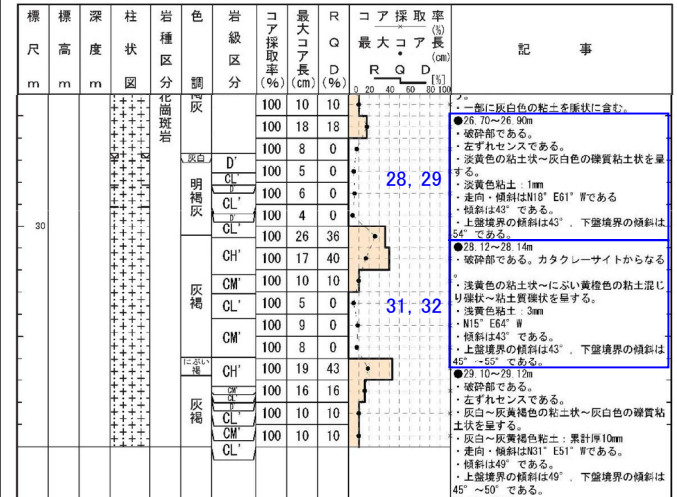
H27-B-3 コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 2.6 (m)	深度 (m)	境界 位置	地層名	岩種	色調	割れ目 形状	コア の長さ	風化 度	RQD	最大 コア長	岩級区分		破砕区分		記事	
											Hc	Hj	Hc	Hj		
	26.00														26	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
	26.20														27	
	26.70														28	
	27.00														29	
	27.20														30	
	27.57														31	
	28.12														32	

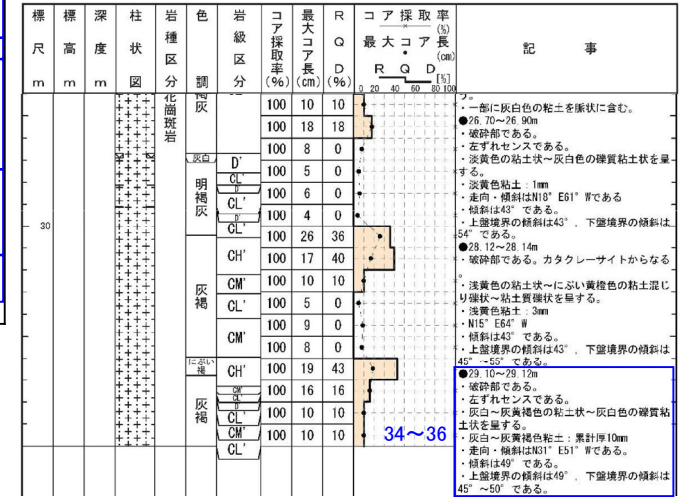
記事内容
25.00~25.81m及び25.09~25.28m 85°~90° 割れ目に厚さ1~2m/mで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂はさむ。 一部で風化により軟化し硬さ「D」の部分も認められる。 25.80m以深で割れ目多くなる。 割れ目ぞいに砂状化する部分が多い。
26.22m 50° 割れ目は交差する高角度割れ目を切っている。(左ズレ, 5m/m)
26.70~26.90m: 破砕帯(主せん断面26.70m) 26.70m: Hc-1 43° で上下端ともに直線的に連続。石英粒, 岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y8/3), 厚さ1m以下。 26.70~26.90m: Hb 上端43° で直線的に下端54° でやや湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒, φ5~10m/m粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質な礫質粘土状を呈する。下端は厚さ1~2m/mの粘土脈。 色調は灰白(2.5Y8/2~7.5YR/2), 厚さ16.0~18.0m/m
26.90~27.57m: D 27.00m以浅は砂礫状, 27.00m以深はバラけた礫状を呈するが, 27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていると推定される。 27.57~28.12m: CL 硬さ「C」岩片も残留するが, 全体的には硬さ「D」に軟化。 割れ目ぞいに薄砂や粘土をはさむことが多い。
28.12~28.14m: 破砕帯(主せん断面28.12m) 28.12m: HC-1 43° で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は浅黄(7.5YR/3), 厚さ1~3m/m。
28.12~28.14m: Hj 上端43° で直線的に, 下端45~55° で波打って連続。粘土化と砂状化の著しいφ3~5m/m岩片からなり, 「粘土混じり, ないし粘土質岩片状」呈する。 色調はにぶい黄橙(10YR/4), 厚さ1~3m/m。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
26	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟や割れ目の発達程度については, RQD, 最大コア長, 岩級区分に含めて示しているため削除。 マンガンについては, 補足的なものであるため削除。 一部割れ目沿いで砂を挟在するが, 周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
27	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目については, 系統的な変位が認められないため削除。
28, 29	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については, 補足的なものであるため, 端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については, コア観察による最新活動面を示したものであり, 申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径, 粒子の種類, 含有率については, 補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため, Hb及びHj区間の幅については削除。 境界の直線性, 硬軟については, 申請書では記載しないこととしているため削除。
30	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については, “岩級区分”欄で示していることから削除。 26.90~27.00mで砂礫状を呈するが, 劣化に系統性が認められないことから削除。 27.00~27.57mで岩片状を呈するが, 掘削時の機械割れと判断し削除。 硬軟については, 岩級区分に含めて示していることから削除。 27.57~28.12mの一部割れ目に砂や粘土を挟在するが, 周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
31, 32	<ul style="list-style-type: none"> カタクレーサイト主体であると判断したことから, カタクレーサイトからなること記載。 表現の見直し(粘土混じり, ないし粘土質岩片状~粘土混じり礫状~粘土質礫状) 粘土の累計幅については, 最大値を記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については, 補足的なものであるため, 端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については, コア観察による最新活動面を示したものであり, 申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径, 粒子の種類, 含有率については, 補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため, Hj区間の幅については削除。 境界の直線性, 硬軟については, 申請書では記載しないこととしているため削除。

標尺 (m)	深度 (m)	採取位置	心層地質	地層	細区分			R	Q	D	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・細細スケッチ等
					割れ目の状態	風化	軟化					
29	28.14										33	28.14~29.10m: CL 硬さ「C」主体で、下端側の28.85m以深で硬さ「D」と風化で軟化、 割れ目は直上位の破砕帯主せん断面と同方向に近い40°~60°で分布する。
	29.10										34	●29.10~29.12m: 破砕帯(主せん断面29.10m) 29.10~29.11m: Hc-1 上端49°で直線的、下端50°で波打って連続。φ1m/m石英粒をごくわずか (5%以下)含む軟質~半固結状粘土(ガウジ)。 色調は、上端側: 灰白(10YR8/2)、中央: 灰黄褐(10YR4/2)、下端側: 灰黄褐 (10YR6/2)の縞状模様呈する。厚さ5~10m/m。
	29.11										35	29.11~29.12m: Hb 上端50°、下端45°~50°~55°でいずれも波打って連続。φ1~2m/m石英粒、 φ3~5m/m粘土化岩片を20%程度含む半固結状の礫質粘土状を呈する。色 調はオリブ色帯びた灰白色(7.5Y8/2)、厚さ7~11m/m。
	30.02										36	29.12~30.56: CL 30.02m以深は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。
											37	

記事内容
28.14~29.10m: CL 硬さ「C」主体で、下端側の28.85m以深で硬さ「D」と風化で軟化、 割れ目は直上位の破砕帯主せん断面と同方向に近い40°~60°で分布する。
●29.10~29.12m: 破砕帯(主せん断面29.10m) 29.10~29.11m: Hc-1 上端49°で直線的、下端50°で波打って連続。φ1m/m石英粒をごくわずか (5%以下)含む軟質~半固結状粘土(ガウジ)。 色調は、上端側: 灰白(10YR8/2)、中央: 灰黄褐(10YR4/2)、下端側: 灰黄褐 (10YR6/2)の縞状模様呈する。厚さ5~10m/m。
29.11~29.12m: Hb 上端50°、下端45°~50°~55°でいずれも波打って連続。φ1~2m/m石英粒、 φ3~5m/m粘土化岩片を20%程度含む半固結状の礫質粘土状を呈する。色 調はオリブ色帯びた灰白色(7.5Y8/2)、厚さ7~11m/m。
29.12~30.56: CL 30.02m以深は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
33	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
34~36	<ul style="list-style-type: none"> ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・下盤境界の見かけの傾斜について、55°との追記があるが、50°で問題ないと判断し反映せず。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・縞状模様については、色調で示していることから削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hb区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
37	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

標尺 30 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	記事
30	16.62		CL		38										38
30	29.60		CH		39										39
30	31.62		CH		40										40
30	33.09		CL		41										41

記事内容
38 30.55m付近をはじめ、割れ目ぞいに風化で砂状化する部分がある。 密着度の低い割れ目、ゆ着割れ目が多い。 29.15～29.60m, 30.30～30.56m 割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン 鉱染を受ける。
39 30.56～32.21m: CH 堅硬、割れ目挟雑物は一部を除き分布しない。 割れ目や岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。 コア中には密着度の低い割れ目やゆ着割れ目は殆んど分布しない。
40 31.30m付近は割れ目が交差し、短柱状(コア長5cm前後)に砕けている。 31.62～31.66m 上下端とも50° 割れ目に囲まれ軟化する。 上下端には各々幅2m/m, 0.5m/mの軟質褐色粘土脈をはさむ。 32.11m 40° 割れ目をはさみ厚さ15～20m/m緑泥石化し、色調が淡緑灰色化 する。 φ0.5m/m以下の微細なセリサイトを伴う。劣化や粘土化はない。 32.21～33.09m: CM 一部で挟在物をはさむがはさまない割れ目が主体。 密着度の低い割れ目を多く含む。一部では開口化している。 33.30～33.53m 割れ目ぞいや岩芯の一部がマンガン鉱染を受けるが劣化は伴 わない。 32.53m 45° 厚2m/m軟質黄褐色粘土はさみ、その上下盤には粘土とほぼ直 交する割れ目が分布する。 33.09～34.20m: CL 60～90°の高角度割れ目が多く、一部で分岐～収れんを繰り返す。これら割れ 目はマンガン鉱染や幅1～2m/mの軟質な灰白色粘土を脈状に伴うことが多い。 また風化による砂状化が拡大する部分もある。 33.70m以深では硬さ「C」の岩片も多く含むようになる。 34.20m 40° 割れ目は厚さ2～3m/m、やと締った灰白色粘土脈をはさむ。
41 34.20～35.94m: CM 殆んどの割れ目に挟雑物は分布しないが、岩芯の一部も含め、軽微なマンガ ン鉱染を受ける。劣化は伴わない。 密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。 白濁化した長石が多い。

標尺	高さ	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア	最大	R	Q	D	最大	R	Q	D	記事
m	m	m	図	区分		区分	採取	コア	(%)	(%)	(%)	コア	(%)	(%)	(%)	
30				灰		CL	100	4	0							
				灰		CH	100	26	36							
				灰		CM	100	17	40							
				灰		CL	100	10	10							
				灰		CM	100	9	0							
				灰		CH	100	19	43							
				灰		CL	100	16	16							
				灰		CM	100	10	10							
				灰		CL	100	10	10							

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
38	<ul style="list-style-type: none"> 一部割れ目沿いで砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 割れ目の密着状態、マンガンについては、補足的なものであるため削除。
39	<ul style="list-style-type: none"> “コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質、柱状と記載。 岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 割れ目の挟在物の有無、マンガン、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
40	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 一部割れ目に粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 色調、鉱物の晶出、挟在物の有無、割れ目の密着状態・開口状況、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。
41	<ul style="list-style-type: none"> 岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 “コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 割れ目の挟在物の有無、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。

H27-B-3

コア観察カード (H27年8月)

標尺 1.5 (m)	深度 (m)	地層 ・地質 位置	地 質 色 調	細区分				最大 径 (mm)	岩 質 記 号	硬 度 記 号	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				割れ 目 性状	風 化	実 質	実 質				
										42	35.31m 60° 割れ目ぞい厚さ3~5m/m砂状化。 35.47m 5° 割れ目で90° 割れ目が切られる(変位量不明)。
										43	35.94~37.30m: CH 堅硬。割れ目挟雑物も分布しない。
										44	36.07~36.32m 割れ目ぞいや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。ただし、密着度の低い割れ目が区間内に数本分布する。

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
35.31m 60° 割れ目ぞい厚さ3~5m/m砂状化。
35.47m 5° 割れ目で90° 割れ目が切られる(変位量不明)。
35.94~37.30m: CH 堅硬。割れ目挟雑物も分布しない。
36.07~36.32m 割れ目ぞいや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。ただし、密着度の低い割れ目が区間内に数本分布する。

申請書用柱状図

標 尺 m	高 度 m	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R D (%)	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	記 事
30			灰 褐	灰	CL	100	4	0			・傾斜は43°である。 ・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は54°である。 ●29.12~29.14m ・破砕部である。カタクレサイトからなる。
			灰 褐	灰	CH	100	26	36			・淡黄色の粘土状~にふい黄褐色の粘土混じり塊状~粘土質塊状を呈する。 ・淡黄色粘土。3mm ・N15' E64' W
			灰 褐	灰	CM	100	17	40			・傾斜は43°である。 ・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は45°~55°である。 ●29.10~29.12m ・破砕部である。
			灰 褐	灰	CL	100	10	10			・左ずれセンスである。 ・灰白~灰黄褐色の粘土状~灰白色の硬質粘土状を呈する。
			灰 褐	灰	CH	100	9	0			・走向・傾斜はN31' E51' Wである。
			灰 褐	灰	CL	100	8	0			・傾斜は49°である。 ・上盤境界の傾斜は49°、下盤境界の傾斜は45°~50°である。 30.56~32.21m ・理質で割れ目が少なく、柱状を呈する。 34.20~35.94m ・理質だが、密着度の低い割れ目が多い。
			灰 褐	灰	CH	100	19	43			35.94~37.30m ・理質で割れ目が少なく、柱状を呈する。 37.68~37.81m ・割れ目沿いに、砂状化している。 ・白色の粘土脈を伴う。
			灰 褐	灰	CL	100	16	16			
			灰 褐	灰	CH	100	10	10			
			灰 褐	灰	CL	100	10	10			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
42	・一部割れ目沿いに砂状化し、割れ目が切られるとあるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
43	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質、柱状と記載。 ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
44	・マンガン、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。

標尺 (m)	深度 (m)	採掘機 位置	心管 位置	細区分				崩れ 状態	RQD	崩れ 区分	崩れ 原因	崩れ 区分	基盤岩コア観察カード	
				崩れ 状態	崩れ 原因	崩れ 区分	崩れ 原因						記事・破砕性状・詳細スケッチ等	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
37	37.03													37.03m 割れ目200-200mm前後で再結晶の少ない 粘土。この割れ目は交差する割れ目と切れている(変位量不明)
37	37.30												45	37.30~37.55m: CM 割れ目200-200mm前後で再結晶の少ない粘土。
37	37.55												46	37.55~37.69m: CL 上下端をマンガン脈に囲まれ軟化が進んでいる。マンガンは砂状呈する。
37	37.81												47	37.81~38.50m: D 50~60° 割れ目ぞいに風化による砂状化進む。厚1m/m以下の白色粘土脈も伴う。
37	38.21												48	38.21m以深では50° 前後の割れ目ぞいに風化、砂状化進む。また少量の厚さ1~2m/m白色~褐色軟質粘土脈も伴う。
37	38.50												49	38.50~39.14m: CM 一部でゆるぎ割れ目を含むが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。
37	39.14												49	39.14~40.79m: CL 密着度の低い割れ目を多く含む。ハンマーの打撃で大半は分離・細片化する。割れ目には砂や粘土を厚さ1~3m/mではさむことが多い。

記事内容
37.03m 57° 割れ目ぞいの一部で厚さ3m/m前後が砂~細片化する。この57° の割れ目は交差する割れ目を切っている(変位量不明)。
37.30~37.55m: CM 直上位に比べ岩片がや~軟化する。
37.55~37.69m: CL 上下端をマンガン脈に囲まれ軟化が進んでいる。マンガンは砂状呈する。
37.69~37.81m: D 50~60° 割れ目ぞいに風化による砂状化進む。厚1m/m以下の白色粘土脈も伴う。
37.81~38.50m: CL 38.21m以深では50° 前後の割れ目ぞいに風化、砂状化進む。また少量の厚さ1~2m/m白色~褐色軟質粘土脈も伴う。
38.50~39.14m: CM 一部でゆるぎ割れ目を含むが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。
39.14~40.79m: CL 密着度の低い割れ目を多く含む。ハンマーの打撃で大半は分離・細片化する。割れ目には砂や粘土を厚さ1~3m/mではさむことが多い。

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	記事
m	m	m	図			(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
30				灰	CL	100	4	0					・傾斜は43° である。 ・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は54° である。 ●29.12~29.14m ・破砕部である。カタクレサイトからなる
				灰	CH	100	26	36					・淡黄色の粘土状~にふい黄色の粘土混じり塊状~粘土質塊状を呈する。 ・淡黄色粘土、3mm ・N15° E64° #
				灰	CM	100	17	40					・傾斜は43° である。 ・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は45° ~55° である。 ●29.10~29.12m ・破砕部である。
				灰	CL	100	10	10					・左ずれセンスである。 ・灰白~灰黄褐色の粘土状~灰白色の硬質粘土状を呈する。
				灰	CH	100	9	0					・走向・傾斜は31° E51° #である。 ・傾斜は49° である。 ・上盤境界の傾斜は49°、下盤境界の傾斜は45° ~50° である。 30.56~32.21m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
				灰	CL	100	16	16					34.20~35.94m ・硬質だが、密着度の低い割れ目が多い。
				灰	CM	100	10	10					35.94~37.30m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
				灰	CL	100	10	10					37.69~37.81m ・割れ目ぞいに、砂状化している。 ・白色の粘土脈を伴う。
				灰	CL	100	11	11					40.79~41.83m ・硬質であるが、割れ目が多い。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
45	<ul style="list-style-type: none"> ・37.03mで割れ目を切っているとあるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
46	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・粘土脈の幅については、直線性に乏しく、ばらつきがあるため削除。
47	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。
48	<ul style="list-style-type: none"> ・一部割れ目沿いに砂状化し、粘土を挟在するが、周囲の岩盤の劣化が認められないことから削除。
49	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・39.14~40.79mの一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 L0 (m)	深度 (m)	地質 位置	地質 位置	細区分				最大 径 (mm)	岩 級 区 分	破 碎 度 区 分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				割れ目 性状	割れ目 性状	風化 性状	変質 性状				
	40.14			○	○	○	○			50	40.14~40.26m 50~60° 割れ目に厚さ1~2m/mの軟質粘土脈はさむ。 40.42m以深は岩片自身の軟化が進み、割れ目ぞいの砂状化も拡大する。
	40.79			○	○	○	○			51	40.79~41.83m: CM 一部の割れ目を除き、割れ目の挟在物は分布しない。
	41.30			○	○	○	○			52	41.30m以深では密着度の低い割れ目が多い。一部では既に開口化している。 41.30m 60° 割れ目ぞいにφ2~4m/m石英が多く晶出している。
	41.83			○	○	○	○			53	41.83~41.95m: D 上端60° 下端55° 割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と岩組織は不明瞭化。 41.95~42.78m: CL 割れ目は直下の破砕帯主せん断面と同方向の40~50° 割れ目が主体。 割れ目の多くに粘土脈や砂の薄層をはさむ。 長石の一部が白濁化している。 42.36~42.40mは上下端とも40° 割れ目に囲まれて風化・砂状化。

記事内容
40.14~40.26m 50~60° 割れ目に厚さ1~2m/mの軟質粘土脈はさむ。 40.42m以深は岩片自身の軟化が進み、割れ目ぞいの砂状化も拡大する。
40.79~41.83m: CM 一部の割れ目を除き、割れ目の挟在物は分布しない。
41.30m以深では密着度の低い割れ目が多い。一部では既に開口化している。 41.30m 60° 割れ目ぞいにφ2~4m/m石英が多く晶出している。
41.83~41.95m: D 上端60° 下端55° 割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と岩組織は不明瞭化。 41.95~42.78m: CL 割れ目は直下の破砕帯主せん断面と同方向の40~50° 割れ目が主体。 割れ目の多くに粘土脈や砂の薄層をはさむ。 長石の一部が白濁化している。 42.36~42.40mは上下端とも40° 割れ目に囲まれて風化・砂状化。

標尺	高度	深度	柱状	岩種	色	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	記事
						CL	100	11	11								40.79~41.83m 硬質であるが、割れ目が多い。
						CM	100	9	0								●42.85~42.91m 破砕部である。 右ずれセンスである。 灰白色の砂・極微じんり粘土状~明褐色の粘土泥じんり層状を呈する。 ・成土赤土・鉄針層5cm ・走向・傾斜はNS71° Wである。 ・傾斜は45° である。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は66° である。 46.14~46.61m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・上部は長石の多くが白濁化する。 ・一部で割れ目沿いに、砂状~細片化している。
						CL	100	8	0								
						CL	100	13	33								
						CM	100	11	11								
						CL	100	12	12								
						CM	100	11	21								
						CM	100	11	11								
						CM	100	6	0								
						CM	100	7	0								
						CM	100	4	0								
						CM	100	4	0								

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
50	・砂や粘土を挟在するが、いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
51	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質であるが、割れ目が多いと記載。 ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
52	・割れ目の密着状態・開口状況、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目や岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・41.83~41.95mで割れ目沿いに砂状化するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
53	・岩級およびその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・42.36~42.40mで割れ目沿いに砂状化するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。

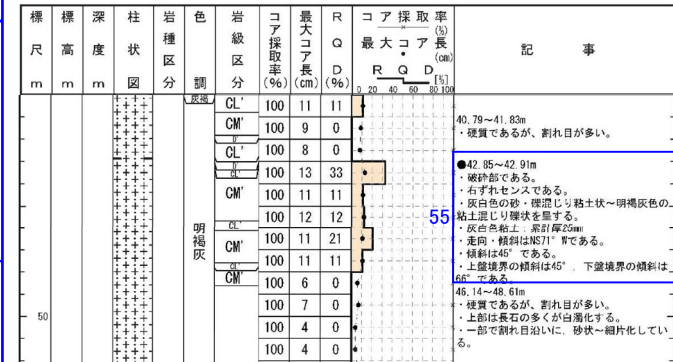
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 番号	地質 番号	細区分		割れ目 形状	割れ目 方向	割れ目 長さ	割れ目 密度	割れ目 間隔	割れ目 種類	備考
				割れ目 形状	割れ目 方向							
43	42.78											
44	42.85											
45	42.91											
46	43.00											
47	43.17											
48	43.40											

記事内容
42.78~42.85m: D 風化で著しく軟化するが、岩組織や割れ目の一部は残留している。
●42.85~42.91m: 破砕帯(主せん断面42.85m)
42.85~42.87m: Hc-2 上端45°で直線的に、下端41°で波打って連続。φ1~2m/m石英粒、φ5m/m粘土化岩片を20%程度含む半固状粘土(ガウジ)。上端1~2m/mは風化で褐色化(明黄褐:10YR6/6)する。
42.87~42.91m: Hj 色調は灰白(2.5Y8/1)、厚さ15~25m/m。
42.91~43.00m: D 上端41°、下端66°でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。φ5~10m/mの粘土化~硬さ「D」岩片からなり、岩片間の一部は粘土~幅1m/m白色軟質粘土脈が分布している。全体に粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐灰(7.5YR7/2)、厚さ60m/m
43.00~43.17m: CL 縮った砂礫状を呈する。岩組織と割れ目は消滅している。
43.17~43.40m: CM 白色粘土を脈状に伴う。
43.40~43.17m: CL 割れ目ぞいに砂状化する。白色粘土を細脈状に伴う。
43.17~45.66m: CM 硬さ「C」を主体とするが、一部に硬さ「B」の堅硬な柱状コアも含む。割れ目の一部に幅1~2m/mの粘土、砂の薄層を挟在するが、挟在しない割れ目が主体。面は薄く褐色化するものも多いが劣化はない。一部でゆる割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しないものが主体。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
54	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
55	<ul style="list-style-type: none"> ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) ・粒度について、φ1~2mm石英粒、φ5mm粘土化岩片を20%程度含むとの記載に基づき、砂・礫混じり粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
56	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・42.91~43.00mで縮まった砂礫状を呈するが、原岩組織が比較的残留しており、劣化の系統性も不明瞭であることから削除。 ・岩組織と割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・43.00~43.17mで割れ目ぞいに砂状化し、粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
57	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の挟在物の有無、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワークプロ変換

申請書用柱状図

標尺 4.5 (m)	深度 (m)	線昇 機位置	地層 名	色	細区分										最大径 mm	岩 質	破 砕 度 分 級	基盤岩コア観察カード 記号・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目 形状	割れ目 長さ	割れ目 密度	割れ目 方向	割れ目 性状	割れ目 性状	割れ目 性状	割れ目 性状	割れ目 性状	割れ目 性状				
0.9	45.00																58	45.00~45.40m: CM 高角度割れ目が連続。交差する割れ目の一部は高角度割れ目で切られている。 45.41~45.50m: 片状化するが砂や粘土は含まない。 45.56~46.14m: CL 風化で割れ目ぞいに細片化~砂状化が拡大する。 45.96mで深さ「C」の硬質岩片も多く含む。少量の軟質な白色粘土も脈状に含んでいる。 46.14~47.58m: CM 堅硬であるが多くの長石が白濁化する。 割れ目挟雑物は殆んど分布しない。 47.00~47.23m間では割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。 47.24~47.29m間は上下端の割れ目とほぼ同方向に砂~φ5~10m/mに片状化する。 岩片自身は硬さ「C」「B」と硬い。 47.58~47.77m: CL 35~45° 割れ目が多く、この割れ目ぞいに厚さ2~5m/m程度砂状~細片状化。 47.77~48.61m: CM 堅硬で長石の白濁化も少ないが、一部で低密度の低い割れ目も含む。 割れ目挟在物は分布しない。
0.9	47.00																59	48.61~56.69m: CL 硬さ「C」と硬さ「D」が交互に分布する。 密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を多く含んでいる。 割れ目ぞいに厚さ10~30m/m程度まで風化による砂状化が進む部分も含む。 48.61~50.56mは硬さ「C」主体で、49.49m・40° 厚さ15m/m。 50.18m・35° 厚さ30m/mで砂状~細片状化が進む。 灰白~褐色粘土も伴っている。
0.9	60.00																60	

記事内容
()~45.66m: CM 45.00~45.40m に80~90° の高角度割れ目が連続。交差する割れ目の一部は高角度割れ目で切られている。 45.41~45.50m 割れ目が交差し、一部φ5~20m/mに片状化するが砂や粘土は含まない。 45.66~46.14m: CL 風化で割れ目ぞいに細片化~砂状化が拡大する。 45.96mで深さ「C」の硬質岩片も多く含む。少量の軟質な白色粘土も脈状に含んでいる。 46.14~47.58m: CM 堅硬であるが多くの長石が白濁化する。 割れ目挟雑物は殆んど分布しない。 47.00~47.23m間では割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。 47.24~47.29m間は上下端の割れ目とほぼ同方向に砂~φ5~10m/mに片状化する。 岩片自身は硬さ「C」「B」と硬い。 47.58~47.77m: CL 35~45° 割れ目が多く、この割れ目ぞいに厚さ2~5m/m程度砂状~細片状化。 47.77~48.61m: CM 堅硬で長石の白濁化も少ないが、一部で低密度の低い割れ目も含む。 割れ目挟在物は分布しない。
48.61~56.69m: CL 硬さ「C」と硬さ「D」が交互に分布する。 密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を多く含んでいる。 割れ目ぞいに厚さ10~30m/m程度まで風化による砂状化が進む部分も含む。 48.61~50.56mは硬さ「C」主体で、49.49m・40° 厚さ15m/m。 50.18m・35° 厚さ30m/mで砂状~細片状化が進む。 灰白~褐色粘土も伴っている。

標尺 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩 級 区 分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)	最大 コア 長 (cm)	記事
			明徳灰		CL	100	11	11			40.79~41.83m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ●42.05~42.91m ・破砕部である。 ・わずれセンスである。 ・灰白色の砂・塊状じり粘土状~明確灰色の粘土層じり層状を呈する。 ・灰白色土 累計厚50m ・走向・傾斜はN57° Wである。 ・傾斜は45° である。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は66° である。
			明徳灰		CM	100	9	0			46.14~48.61m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・上部は長石の多くが白濁化する。 ・一部で割れ目ぞいに、砂状~細片化している。
			明徳灰		CL	100	8	0			
			明徳灰		CM	100	13	33			
			明徳灰		CL	100	11	11			
			明徳灰		CM	100	12	12			
			明徳灰		CL	100	11	21			
			明徳灰		CM	100	11	11			
			明徳灰		CL	100	6	0			
			明徳灰		CM	100	7	0			
			明徳灰		CL	100	4	0			
			明徳灰		CM	100	4	0			
			明徳灰		CL	100	6	0			
			明徳灰		CM	100	5	0			
			明徳灰		CL	100	3	0			
			明徳灰		CM	100	2	0			
			明徳灰		CL	100	2	0			
			明徳灰		CM	100	3	0			
			明徳灰		CL	100	5	0			
			明徳灰		CM	100	5	0			
			明徳灰		CL	100	3	0			
			明徳灰		CM	100	5	0			
			明徳灰		CL	100	7	0			
			明徳灰		CM	100	4	0			
			明徳灰		CL	100	7	0			
			明徳灰		CM	100	9	0			
			明徳灰		CL	100	6	0			
			明徳灰		D	100	2	0			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
58	<ul style="list-style-type: none"> 45.00~45.40mでは、高角度割れ目で切られているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 45.41~45.50mで片状化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 45.66~46.14mで割れ目ぞいに細片~砂状化しているが、いずれも周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 45.96~46.14mで脈状に粘土を含むが、いずれも連続性や直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
59	<ul style="list-style-type: none"> “コアの硬さ”欄に基づき、下端深度を48.61m、硬質と記載。 “コアの形状”欄に基づき、割れ目が多いと記載。 割れ目の挟在物の有無、マンガン、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 細片化した岩片の粒径については、補足的なものであるため削除。
60	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 一部割れ目ぞいに砂状~細片状化し、粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (60m)	深度 (m)	境界 数値位置	地質名	色調	割れ目 の形状	細区分			備考
						子 細 区分	風 化 度	質 地	
									基盤岩コア観察カード 肥赤・硬質性・細網スケッチ等
	50.00								61 50.00~50.42m 70°前後の微細な風化割れ目が数条波打ちながら連続する。これらの割れ目はハンマーの強打で分離するものもある。
	50.56								62 50.56~51.16mは硬さ「D」主体で、30~50°割れ目が多く割れ目ぞいに厚さ1~3m/mと薄く砂状部をはさんでいることが多い。岩片自身も上下位に比べ軟化している。
	51.16								63 51.16~52.00mは硬さ「C」主体。 51.35~51.64m間では割れ目が交差し交差部を主体として砂状部が拡大している。 また白色粘土も少量伴っている。
	52.00								64 52.00~52.32m φ10~20m/m硬さ「D」「C」岩片と岩片間の締った砂状部からなる。 52.32~52.75m 長石の白濁化が多いが硬さ「C」と硬質。一部で硬さ「B」も含むが一部では密着度の低い割れ目も含む。 52.75~53.10m 岩片自身も硬さ「D」と軟化する。一部で硬さ「C」も残留。
	53.10								65 53.10~53.85m 密着度の低い割れ目が多く、一部ですでに開口化している。 割れ目の一部は砂状化し、白色粘土を伴うことが多い。 色調が「橙色」を帯びるようになる。 53.40~53.60m間は硬さ「B」に近い。また割れ目の挟雑物も殆んど分布しない。 53.85~54.31m間は割れ目挟在物少ない。
	54.31								66 54.35~54.59m 割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染うけ、黒褐色化する。

記事内容
61 50.00~50.42m 70°前後の微細な風化割れ目が数条波打ちながら連続する。これらの割れ目はハンマーの強打で分離するものもある。
62 50.56~51.16mは硬さ「D」主体で、30~50°割れ目が多く割れ目ぞいに厚さ1~3m/mと薄く砂状部をはさんでいることが多い。岩片自身も上下位に比べ軟化している。
63 51.16~52.00mは硬さ「C」主体。 51.35~51.64m間では割れ目が交差し交差部を主体として砂状部が拡大している。 また白色粘土も少量伴っている。
64 52.00~52.32m φ10~20m/m硬さ「D」「C」岩片と岩片間の締った砂状部からなる。 52.32~52.75m 長石の白濁化が多いが硬さ「C」と硬質。一部で硬さ「B」も含むが一部では密着度の低い割れ目も含む。 52.75~53.10m 岩片自身も硬さ「D」と軟化する。一部で硬さ「C」も残留。
65 53.10~53.85m 密着度の低い割れ目が多く、一部ですでに開口化している。 割れ目の一部は砂状化し、白色粘土を伴うことが多い。 色調が「橙色」を帯びるようになる。 53.40~53.60m間は硬さ「B」に近い。また割れ目の挟雑物も殆んど分布しない。 53.85~54.31m間は割れ目挟在物少ない。
66 54.35~54.59m 割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染うけ、黒褐色化する。

標尺	高さ	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長D(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長D(cm)	記事
m	m	m	区											
				明礬灰	灰褐色	CL'	100	11	11					40.79~41.83m 硬質であるが、割れ目が多い。
						CM'	100	9	0					●42.95~42.91m ・破砕部である。 ・左ずれセメントである。 ・灰白色の砂・黄褐色の粘土土質〜明礬灰色の粘土混じり層状を呈する。 ・灰白色粘土、累計厚20mm ・走向・傾斜はN57°Eである。 ・傾斜は45°である。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は66°である。 46.14~48.61m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・上部は長石の多くが白濁化する。 ・一部で割れ目沿いに、砂状〜細片化している。
						CL'	100	13	33					53.10~55.82m ・割れ目が多く、一部割れ目沿いに砂状化し白色粘土を伴う。
						CM'	100	11	11					
						CL'	100	12	12					
						CM'	100	11	21					
						CM'	100	11	11					
						CM'	100	6	0					
						CM'	100	7	0					
						CM'	100	4	0					
						CM'	100	4	0					
						CM'	100	6	0					
						CM'	100	5	0					
						CM'	100	3	0					
						CM'	100	2	0					
						CM'	100	3	0					●56.69~56.72m ・破砕部である。カタクレサイトからなる。
						CL'	100	2	0					・淡黄色の粘土土質〜淡黄〜黄灰色の砂・粘土混じり層状を呈する。 ・淡黄色粘土、累計厚10mm ・走向・傾斜はN2°E36°Wである。 ・傾斜は31°である。 ・上盤境界の傾斜は30°、下盤境界の傾斜は31°である。 ●58.89~58.99m ・破砕部である。 ・左ずれセメントである。 ・灰白色の細粒粘土土質〜灰色の粘土混じり層状を呈する。
						CL'	100	5	0					
						CM'	100	3	0					
						CM'	100	5	0					
						CM'	100	3	0					
						CL'	100	5	0					
						CL'	100	7	0					
						CL'	100	4	0					
						CM'	100	7	0					・灰白色細粒粘土土質・累計厚15mm ・走向・傾斜はN1°E54°Wである。 ・傾斜は25°である。 ・上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は25°である。
						CM'	100	7	0					
						CL'	100	6	0					
						D'	100	2	0					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
61	・割れ目の傾斜については、当該区間の周囲と差異がないため削除。 ・割れ目の傾斜や割れ目の密着の程度については、補足的なものであるため削除。
62	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・50.56~51.16mの一部割れ目沿いで砂状化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
63	・一部割れ目沿いで砂状化や粘土の挟在がみられるが、連続性や直線性に乏しく、当該区間の周囲と差異が認められないことから削除。
64	・52.00~52.32mの一部で締まった砂状を呈するが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
65	・割れ目の密着状態・開口状況、色調については、補足的なものであるため削除。
66	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目の挟在物の有無、マンガンについては、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 56 57 58	深度 (m)	層 名	色調	割れ目 の状態	割れ目 の長さ	風化 状態	累 積 厚	破砕 区分	基盤岩コア観察カード 記号・破砕性・詳細スケッチ等
	55.08							67	55.08~55.55m 割れ目ぞい砂状化が進み砂や粘土をはさむ割れ目が多い。
	55.08							68	55.08m 25°厚さ5~10m/mの淡黄色粘土はさむ。粘土直下に厚さ10m/m砂状部伴う。
	56.69							69	55.82~56.69m 割れ目に挟む物が分布しないことが多い。
	56.00							70	56.00~56.30m 間を73~90°で湾曲して伸びる高角度割れ目を境として、下半分側は礫状~岩片状を呈する。
	56.69							70	●56.69~56.72m 破砕帯(主せん断面56.72m)
	56.69							71	56.69~56.72m:Hj 上端30°で波打って、下端31°で直線的に連続。φ3~10m/m硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状~粘土化部からなる。「砂・粘土混じり岩片状」。主せん断面近傍では、それに平行~ほぼ平行な微細割れ目も分布。色調は浅黄(2.5Y7/3)~黄灰(2.5Y6/1)、厚さ20m/m
	56.72							71	56.72m:Hc-1 31°で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y8/3)、厚さ1m/m
	56.72							72	56.72~57.29m:D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し一部で礫状を呈するが岩組織や割れ目の一部は残留する。
	56.94							72	56.94~56.97m、57.00~57.02mはマンガン鉱染により黒褐色化。
	57.29							73	57.29~58.89m:CL 40~50°割れ目主体であるが、これらに斜交するものも多い割れ目密集部。砂を主体とする割れ目挟む物が多い。
	58.51							73	58.51m以深では斑点状~脈状のマンガン鉱染部が点在する。
	58.68							73	58.68m・10°幅1~3m/m、58.82m・45°幅7m/mの石英脈分布。

記事内容	
67	55.08~55.55m 割れ目ぞい砂状化が進み砂や粘土をはさむ割れ目が多い。
68	55.08m 25°厚さ5~10m/mの淡黄色粘土はさむ。粘土直下に厚さ10m/m砂状部伴う。
69	55.82~56.69m 割れ目に挟む物が分布しないことが多い。
70	56.00~56.30m 間を73~90°で湾曲して伸びる高角度割れ目を境として、下半分側は礫状~岩片状を呈する。
70	●56.69~56.72m 破砕帯(主せん断面56.72m)
71	56.69~56.72m:Hj 上端30°で波打って、下端31°で直線的に連続。φ3~10m/m硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状~粘土化部からなる。「砂・粘土混じり岩片状」。主せん断面近傍では、それに平行~ほぼ平行な微細割れ目も分布。色調は浅黄(2.5Y7/3)~黄灰(2.5Y6/1)、厚さ20m/m
71	56.72m:Hc-1 31°で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y8/3)、厚さ1m/m
72	56.72~57.29m:D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し一部で礫状を呈するが岩組織や割れ目の一部は残留する。
72	56.94~56.97m、57.00~57.02mはマンガン鉱染により黒褐色化。
73	57.29~58.89m:CL 40~50°割れ目主体であるが、これらに斜交するものも多い割れ目密集部。砂を主体とする割れ目挟む物が多い。
73	58.51m以深では斑点状~脈状のマンガン鉱染部が点在する。
73	58.68m・10°幅1~3m/m、58.82m・45°幅7m/mの石英脈分布。

標尺	高度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長 R Q D	記事
			花崗斑岩	にぶい橙	D'	100	6	0				53.10~55.82m ・割れ目が多く、一部割れ目沿いに砂状化し白色粘土を伴う。
			花崗斑岩	淡黄	D'	100	5	0				●56.69~56.72m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・淡黄色の粘土状~淡黄~黄灰色の砂・粘土混じり礫状を呈する。 ・淡黄色粘土。累計厚1mm ・走向・傾斜はN2°W56°Wである。 ・傾斜は31°である。 ・上盤境界の傾斜は30°、下盤境界の傾斜は31°である。 ●56.69~56.97m ・破砕部である。 ・灰白色の凝滞しり粘土状~にぶい橙色の凝滞しり礫状を呈する。 ●56.99~59.75m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・黄褐色の粘土状~にぶい橙色の砂混じり礫状を呈する。 ・黄褐色粘土。1mm ・走向・傾斜はN37°E48°Wである。 ・傾斜は52°である。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は37°である。
			花崗斑岩	灰褐色	CL'	100	3	0				
			花崗斑岩	灰褐色	CL'	100	2	0				
			花崗斑岩	灰褐色	CL'	100	5	0				
			花崗斑岩	灰褐色	CM'	100	5	0				
			花崗斑岩	灰褐色	CM'	100	3	0				
			花崗斑岩	灰褐色	CL'	100	5	0				
			花崗斑岩	灰褐色	CL'	100	7	0				
			花崗斑岩	灰褐色	CM'	100	4	0				
			花崗斑岩	灰褐色	CL'	100	7	0				
			花崗斑岩	灰褐色	CL'	100	4	0				
			花崗斑岩	灰褐色	CL'	100	9	0				
			花崗斑岩	灰褐色	CL'	100	6	0				
			花崗斑岩	灰褐色	D'	100	2	0				
			花崗斑岩	灰褐色	CL'	100	2	0				
			花崗斑岩	灰褐色	D'	100	3	0				
			花崗斑岩	灰褐色	D'	100	2	0				
			花崗斑岩	灰褐色	D'	100	5	0				
			花崗斑岩	灰褐色	D'	100	5	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
67	・55.08~55.55mの一部割れ目に砂や粘土を挟むが、記事No.65でまとめ書きしていることから削除。
68	・粘土と砂状部を挟むが、周辺の岩盤に劣化が認められないことから削除。
69	・割れ目の挟む物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・一部礫状~岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
70, 71	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなること記載。 ・表現の見直し(砂・粘土混じり岩片状→砂・粘土混じり礫状) ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
72	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・一部で礫状を呈するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
73	・マンガン、変色、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・一部割れ目に砂を挟むが、周囲の岩盤の劣化が系統的でないことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

標尺	深度	層名	岩種	色調	割れ目の有無	割れ目の方向	割れ目の長さ	割れ目の幅	割れ目の形状	割れ目の密度	割れ目の種類	細区分		備考
												RCOD	RCOD	
59	58.89											74		
	58.94											75		
	58.96											76		
	58.98											77		
	59.00											78		
	59.69											79		
	59.75											80		
	60.00											81		

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
74 ●58.89～58.98m 破砕帯(主せん断面・58.98m) 58.89～58.94m:Hj 上端20°で直線的に、下端25°で波打って連続。20～30°をこれに直交～斜交する割れ目でφ3～5m/mに細片化、岩片間の一部に淡黄～灰白色軟質粘土はさむ。硬さ「E」主体の「粘土混じり岩片状」呈する。
75 ●58.94～58.96m:Hb 25°で上下端ともに波打って連続。φ2～4m/m石英粒、φ5m/m硬さ「D」岩片を20～30%含む半固結状の「礫質粘土状」呈す。 色調はにぶい黄橙(10YR4/1)、厚さ40m/m。
76 ●58.96～58.98m:Hc-2 25°で上下端とも波打って連続。φ2～3m/m石英粒、硬質岩片を5～10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調はオリーブ色おびる灰白(7.5Y8/2)、厚さ15m/m。
77 ●58.98～59.00m:CL 59.50m以深では粘土をはさむことが多い。
78 ●59.69～59.75m 破砕帯(主せん断面59.69m)
79 ●59.69m:Hc-1 52°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は黄褐(10YR5/6)、厚さ1m/m
80 ●59.69～59.75m:Hj 上端5°、下端37°でともに直線的に連続。φ5～20m/m硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。「砂混じり岩片状」呈す。粘土は分布しない。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)、厚さ40～60m/m。
81 ●59.75～60.00m:CL 割れ目挟在物の分布は少ない。

申請書用柱状図

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長(cm)	記事
60	58.89		花崗斑岩	にぶい橙	D'	100	6	0			53.10～55.82m	・割れ目が多く、一部割れ目沿いに砂状化し白色粘土を伴う。
	58.94				D'	100	5	0				
	58.96				CL'	100	3	0				
	58.98				CL'	100	2	0				
	59.00				CL'	100	3	0				
	59.69				CL'	100	2	0				
	59.75				CL'	100	5	0				
	59.80				CL'	100	5	0				
	59.85				CL'	100	3	0				
	59.90				CL'	100	5	0				
	59.95				CL'	100	7	0				
	60.00				CL'	100	4	0				
	60.05				CL'	100	7	0				
	60.10				CL'	100	9	0				
	60.15				CL'	100	6	0				
	60.20				CL'	100	2	0				
	60.25				CL'	100	4	0				
	60.30				CL'	100	2	0				
	60.35				CL'	100	2	0				
	60.40				CL'	100	3	0				
	60.45				CL'	100	5	0				
	60.50				CL'	100	7	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
74～76	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) φ2～3mm石英粒、硬質岩片を5～10%含むとの記載に基づき礫混じり粘土状と記載。 褐灰色→褐色 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
77	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 一部で粘土を挟在するが、いずれも連続性に乏しいことから削除。
78～80	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(砂混じり岩片状→砂混じり礫状) ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
81	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 割れ目の挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基礎岩コア観察カード		記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
尺貫	メートル	層位	備考
0	0		60.00~61.00m: CM 密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含む。 割れ目の挟在物は少ない。 各割れ目と岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。
0.5	0.5		61.00~61.67m: CL 割れ目ぞいに砂状化が進む。 61.47~61.51m マンガン鉱染により黒褐色化する。 61.67~62.23m: CM 岩片の一部は堅硬な硬さ「B」も含む。 割れ目挟在物はないが軽微なマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。
1.0	1.0		62.23~62.82m: CL 硬さ「D」と「C」が繰り返し分布する。 全体に割れ目に砂や粘土脈などの挟在物をはさむことが多い。 硬さ「D」の間では割れ目ぞいに砂状化が拡大する部分も分布する。
1.5	1.5		62.82~62.93mはφ5~20m/硬さD岩片と岩片間は砂状化し、砂礫状を呈する。 幅1~2m/mの軟質白色粘土脈も伴う。
2.0	2.0		63.03m 30° 割れ目ぞいに厚さ5~15m/mがマンガン鉱染を受ける。 63.04~64.17m 硬さ「C」区間では硬さ「B」も多く含む 63.60~63.70m間はコアチューブ引上げ時に人為的に角礫状したもの。 64.17~64.52m 割れ目ぞいに砂状化することが多く、割れ目が不明瞭(消えかかったもの)なことも多い。 岩組織は明瞭に残留している。
2.5	2.5		64.52~64.99m: CM マンガンに起因する角礫化が顕著で、割れ目も不明瞭(消えかかったもの)なことも多い。 角礫は明確に3層に分けられる。

記事内容	
82	60.00~61.40m: CM 密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含む。 割れ目の挟在物は少ない。 各割れ目と岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。 61.40~61.67m: CL 割れ目ぞいに砂状化が進む。 61.47~61.51m マンガン鉱染により黒褐色化する。 61.67~62.23m: CM 岩片の一部は堅硬な硬さ「B」も含む。 割れ目挟在物はないが軽微なマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。
83	62.23~62.82m: CL 硬さ「D」と「C」が繰り返し分布する。 全体に割れ目に砂や粘土脈などの挟在物をはさむことが多い。 硬さ「D」の間では割れ目ぞいに砂状化が拡大する部分も分布する。
84	62.82~62.93mはφ5~20m/硬さD岩片と岩片間は砂状化し、砂礫状を呈する。 幅1~2m/mの軟質白色粘土脈も伴う。
85	63.03m 30° 割れ目ぞいに厚さ5~15m/mがマンガン鉱染を受ける。 63.04~64.17m 硬さ「C」区間では硬さ「B」も多く含む 63.60~63.70m間はコアチューブ引上げ時に人為的に角礫状したもの。 64.17~64.52m 割れ目ぞいに砂状化することが多く、割れ目が不明瞭(消えかかったもの)なことも多い。 岩組織は明瞭に残留している。

標尺	高度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	採取率(%)	最大コア長(cm)	記事
m	m	円	分			(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
	60		花崗斑岩	灰褐色	CL	100	2	0					
					CL	100	5	0					
					CL	100	5	0					
					CM	100	3	0					
					CL	100	5	0					
					CL	100	7	0					
					CL	100	5	0					
					CM	100	7	0					
					CL	100	4	0					
					CL	100	9	0					
					CL	100	6	0					
					D	100	2	0					
					CL	100	4	0					
					CL	100	2	0					
					D	100	2	0					
					CL	100	3	0					
					D	100	5	0					
					CL	100	5	0					
					D	100	7	0					
					D	100	2	0					
					CL	100	8	0					
					CL	100	4	0					
					D	100	4	0					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
82	<ul style="list-style-type: none"> 「コアの硬さ」欄に基づき、硬質と記載。 割れ目の挟在物の有無、マンガン、色調については、補足的なものであるため削除。 岩級及びその区間については、「岩級区分」欄で示していることから削除
83	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、「岩級区分」欄で示しているため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、いずれも連続性や直線性に乏しいことから削除。
84	<ul style="list-style-type: none"> 岩片の粒径については、補足的なものであるため削除。 粘土脈の幅については、連続性に乏しく、ばらつきがあることから削除。
85	<ul style="list-style-type: none"> マンガンについては、補足的なものであるため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 63.60~63.70mで角礫状化しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。 64.17~64.52mの一部割れ目沿いに砂状化しているが、いずれも連続性に乏しいことから削除。 割れ目や岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。

標尺 (m)	深度 (m)	境界位置 (m)	地質 分類	色	細区分				R	Q	D	備考
					割れ目の形状	割れ目の長さ	割れ目の間隔	割れ目の方向				
65	64.52											86
65	65.19											87
66	65.59											
66	65.99											
66	66.09											

記事内容
<p>64.52～66.39m: CM 65.61m以深は硬さ「B」で堅硬となる。 全体として割れ目挟在物は少ない。 一部の割れ目ぞいでマンガン鉱染を強く受け黒褐色化するが劣化は伴なわない。</p>
<p>65.19m 38° 割れ目ぞい厚さ10m/mで軟化進む。薄い砂状部をはさむ。 65.34m 35° 割れ目ぞい厚さ25m/mの石英質部で硬質淡緑灰色緑泥石化、黒褐色マンガン化するが劣化は伴なわない。 65.59m 35° 割れ目ぞい厚さ20m/mが砂状化～φ5m/m細片化。 65.61m 35° 割れ目を境として以深は堅硬化する。 66.09m 55° 割れ目ぞい砂状化部はさむ。マンガン鉱染も伴っている。</p>

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)				記事																																																																																																	
											R	Q	D	備考																																																																																																		
60		+	花崗斑岩	灰褐色	CL	100	2	0																																																																																																								
																+	花崗斑岩	灰褐色	CL	100	5	0																																																																																										
																													+	花崗斑岩	灰褐色	CM	100	5	0																																																																													
																																									+	花崗斑岩	灰褐色	CM	100	3	0																																																																	
																																																					+	花崗斑岩	灰褐色	CL	100	5	0																																																					
																																																																	+	花崗斑岩	灰褐色	CL	100	7	0																																									
																																																																													+	花崗斑岩	灰褐色	CM	100	4	0																													
																																																																																									+	花崗斑岩	灰褐色	CL	100	9	0																	
																																																																																																					+	花崗斑岩	灰褐色	CL	100	6	0					
+	花崗斑岩	灰褐色	CL	100	4	0																																																																																																										
												+	花崗斑岩	灰褐色	D	100	2	0																																																																																														
																								+	花崗斑岩	灰褐色	CL	100	2	0																																																																																		
																																				+	花崗斑岩	灰褐色	D	100	3	0																																																																						
																																																+	花崗斑岩	灰褐色	CL	100	5	0																																																										
																																																												+	花崗斑岩	灰褐色	D	100	7	0																																														
																																																																								+	花崗斑岩	灰褐色	CL	100	8	0																																		
																																																																																				+	花崗斑岩	灰褐色	CL	100	4	0																						
																																																																																																+	花崗斑岩	灰褐色	D	100	4	0										

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
86, 87	<ul style="list-style-type: none"> “コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質であるが、割れ目が多いと記載。 岩級及びその区分については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 マンガン、割れ目沿いの変色、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

Table with columns for depth (m), lithology, and core observation card details. Includes handwritten notes and symbols.

記事内容 (Article Content) table listing observations from 88 to 94 meters depth, including descriptions of rock layers and weathering.

申請書用柱状図 (Application Form Core Log) table with columns for depth, lithology, and core sampling data.

Table with 2 columns: 記事 (Article) and コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図 (Core Observation Card (Aug 2023) ⇒ Application Form Core Log). Contains deletion reasons for items 88-94.

H27-B-3

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 70 65 71 72 65	深度 (m)	緯度 経度 位置	地質 名称	色 調	細区分				最大コア長 (cm)	破砕度 区分	記事
					割れ目の 形状	割れ目の 長さ	変色	変質			
	70.10										
	71.00									95	70.10~71.20m: D 風化と変質が著しく軟化するが、岩組織と割れ目は残留している。 処々に硬さ「D」の岩片が残留し、71.30m以深で岩片量多くなる。 70.17~70.20m 25°で波打ってマンガンが脈状に分布黒色呈する。下盤側厚さ10m/mで硬化した緑泥石化部を伴う。 70.20~71.30mは粘土化ないし砂状化部主体 厚1m/m白色粘土脈が網状に分布する部分もある。 71.30m以深は硬さ「D」岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなる。部分的にφ1~2m/m石英がマンガン鉱染により黒褐色化する。
	72.00									96	71.72~72.76m: CL φ10~20m/m 硬さ「D」岩片からなり、一部の岩片間では粘土化~砂状化部を伴う。 全体に密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化する。 72.12~72.17m 間の30°割れ目では面ぞいに褐色化し、砂状化も拡大している。

記事内容
70.10~71.72m: D 風化と変質が著しく軟化するが、岩組織と割れ目は残留している。 処々に硬さ「D」の岩片が残留し、71.30m以深で岩片量多くなる。 70.17~70.20m 25°で波打ってマンガンが脈状に分布黒色呈する。下盤側厚さ10m/mで硬化した緑泥石化部を伴う。 70.20~71.30mは粘土化ないし砂状化部主体 厚1m/m白色粘土脈が網状に分布する部分もある。 71.30m以深は硬さ「D」岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなる。部分的にφ1~2m/m石英がマンガン鉱染により黒褐色化する。
71.72~72.76m: CL φ10~20m/m 硬さ「D」岩片からなり、一部の岩片間では粘土化~砂状化部を伴う。 全体に密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化する。 72.12~72.17m 間の30°割れ目では面ぞいに褐色化し、砂状化も拡大している。

標尺	高度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	最大コア長 (cm)	記事
m	m	m									
70				明褐色	CL	100	4	0			● 59.69~59.75m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・黄褐色の粘土状~にぶい褐色の砂混じり硬状を呈する。 ・黄褐色粘土 1mm ・走向・傾斜はN37° E48° である。 ・傾斜は52° である。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は37° である。 69.00~62.23m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目が多い ・一部割れ目沿いに、砂状化している。 62.82~62.93m ・砂層状を呈し、白色粘土脈を伴う。 64.52~66.39m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに、薄く砂状化している。 68.06~68.93m ・砂層状を呈する。
				明褐色	D	100	2	0			70.10~71.72m ・著しく軟質化している。 ・粘土~砂状化が進み、白色粘土脈を伴う。 72.65~73.36m ・著しく軟質化している。 ・一部、極砂層状を呈する。 ● 76.59~76.89m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・明黄褐色の粘土状~灰白~にぶい褐色の硬質粘土~粘土混じり硬状を呈する。 ・明黄褐色粘土、累計厚1mm ・走向・傾斜はN41° E30° Wである。 ・傾斜は47° である。 ・上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は37° である。 79.15~85.03m ・粘土化が進み、著しく軟質化している。 ・原岩組織と割れ目の一部は残っている。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
95	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の見直し(軟化する→軟質化している) ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・岩組織と割れ目の残留の程度、岩片量については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・マンガン、変色、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・粘土脈の幅については、連続性に乏しく、ばらつきがあるため削除。
96	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部割れ目沿いに粘土化及び砂状化がみられるが、連続性に乏しいことから削除。 ・割れ目の密着状態、変色については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界・層位 記号	地質名	細区分				割れ目状態	RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	備考
				割れ目状態	割れ目状態	割れ目状態	割れ目状態					
73	72.65									97	72.65~73.38m : D 72.93~73.11mは強変質で岩組織と割れ目は消滅し細砂礫状を呈する。 上記区間以外は岩組織と割れ目の一部は残留している。また、硬さ「D」の岩片も一部で残留する。	
	73.18									98	73.18~73.19m 20° 割れ目ぞいに厚さ10~15m/mでマンガンが脈状に分布。	
	73.38									99	73.38~76.23 : CL 一部で硬さ「C」岩片も含むが全体的には軟化の進んだ硬さ「D」岩片主体。 密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が10m/m前後で密に分布する。	
74	73.38									100	73.38~73.58m 硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な厚さ1~3m/m灰白色粘土脈をはさむ。 74.04m 25° 割れ目ぞい約20m/m軟化進む。 74.29~74.48m 20~30° 割れ目ぞいに褐色化とマンガン鉱染伴う。 また細かい密着度の低い割れ目も密集する。 74.72~74.84m 硬さ「C」主体であるが、密着度の低い割れ目も多い。	

記事内容
72.65~73.38m : D 72.93~73.11mは強変質で岩組織と割れ目は消滅し細砂礫状を呈する。 上記区間以外は岩組織と割れ目の一部は残留している。また、硬さ「D」の岩片も一部で残留する。
73.18~73.19m 20° 割れ目ぞいに厚さ10~15m/mでマンガンが脈状に分布。
73.38~76.23 : CL 一部で硬さ「C」岩片も含むが全体的には軟化の進んだ硬さ「D」岩片主体。 密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が10m/m前後で密に分布する。
73.38~73.58m 硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な厚さ1~3m/m灰白色粘土脈をはさむ。 74.04m 25° 割れ目ぞい約20m/m軟化進む。 74.29~74.48m 20~30° 割れ目ぞいに褐色化とマンガン鉱染伴う。 また細かい密着度の低い割れ目も密集する。 74.72~74.84m 硬さ「C」主体であるが、密着度の低い割れ目も多い。

標尺	高度	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	最大コア長 (cm)	記事	
m	m	m	図	区分	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(cm)		
70						明褐灰	CL	100	4	0		●59.89~59.75m ・破砕部である。 ・右ずれ断層センスである。 ・黄褐色の粘土状~にぶい橙色の砂混じり礫状を呈する。 ・黄褐色粘土 1mm ・走向・傾斜はN37° E48W° である。 ・傾斜は52° である。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は37° である。 ・60.00~62.23m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに、砂状化している。 ・62.82~62.93m ・砂礫状を呈し、白色粘土脈を伴う。 ・64.52~66.39m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに、薄く砂状化している。 ・68.06~68.93m ・砂礫状を呈する。 ・70.10~71.72m ・若しく軟質化している。 ・粘土~砂質化が進み、白色粘土脈を伴う。 ●72.65~73.38m ・若しく軟質化している。 ・一部、細砂礫状を呈する。 ●76.59~76.89m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・明黄褐色の粘土状~灰白~にぶい橙色の硬質粘土~粘土混じり礫状を呈する。 ・明黄褐色粘土、累計厚1mm ・走向・傾斜はN41° E30° Wである。 ・傾斜は47° である。 ・上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は37° である。 ・79.15~85.03m ・粘土化が進み、若しく軟質化している。 ・原岩組織と割れ目の一部は残っている。	
						D	100	2	0				
						GL	100	2	0				
						D	100	3	0				
						D	100	5	0				
						CL	100	5	0				
						D	100	7	0				
						明褐灰	CL	100	8	0			
						D	100	4	0				
						D	100	4	0				
						明褐灰	CL	100	4	0			
						D	100	4	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
97	<ul style="list-style-type: none"> “コアの硬さ”欄に基づき、軟質化していると記載。 岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
98	<ul style="list-style-type: none"> マンガンについては、補足的なものであるため削除。
99	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
100	<ul style="list-style-type: none"> 73.38~73.58mで割れ目沿いに粘土を挟在するが、いずれも連続性に乏しいことから削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 変色、マンガン、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 深さ (m)	深度 (m)	境界 位置	地質 色	細区分				RQD	最大 コア長	岩級 区分	記事 内容
				別 状	割 れ 目	風 化	質 量				
0.0	0.0									101	75.05~75.56m 割れ目の一部に幅1~2m/mの白色軟質粘土が脈状にはさまれる。
7.6	7.6									102	75.46m 0° 幅3~5m/mの珪質部が斜交する割れ目を切って連続する。粘土化などの劣化は伴わない。 75.80~75.87m コアチューブ引上げ時に乱されφ10m/m前後の礫状コア化している。 76.11~76.23m 10~20° の低角度割れ目が多い。一部で灰白色粘土(幅0.5m/m)をはさむ。 76.23~76.59m:D 76.41m以浅はφ3~5m/mに細片化する。粘土化も伴う。 76.41m以深は大半の割れ目が消滅している。旧割れ目部にそってマンガンが斑点状に分布する。
12.0	12.0									103	

記事内容
75.05~75.56m 割れ目の一部に幅1~2m/mの白色軟質粘土が脈状にはさまれる。
75.46m 0° 幅3~5m/mの珪質部が斜交する割れ目を切って連続する。粘土化などの劣化は伴わない。
75.80~75.87m コアチューブ引上げ時に乱されφ10m/m前後の礫状コア化している。
76.11~76.23m 10~20° の低角度割れ目が多い。一部で灰白色粘土(幅0.5m/m)をはさむ。
76.23~76.59m:D
76.41m以浅はφ3~5m/mに細片化する。粘土化も伴う。
76.41m以深は大半の割れ目が消滅している。旧割れ目部にそってマンガンが斑点状に分布する。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長(cm)	記事
m	m	m	図				(%)	(cm)	(%)			(cm)	
70					明褐灰	CL'	100	4	0				<ul style="list-style-type: none"> ●59.09~59.75m ・破砕部である。 ・左ずれ層層セメントである。 ・黄褐色の粘土状~にぶい橙色の砂混じり礫状を呈する。 ・黄褐色粘土:1mm ・走向・傾斜はN37° E48W° である。 ・傾斜は2° である。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は37° である。 ・60.00~62.23m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに、砂状化している。 ・62.82~62.93m ・砂礫状を呈し、白色粘土脈を伴う。 ・64.52~66.39m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに、薄く砂状化している。 ・68.06~68.93m ・砂礫状を呈する。 ・70.10~71.72m ・著しく軟質化している。 ・粘土~砂状化が進み、白色粘土脈を伴う。 ・72.05~73.38m ・著しく軟質化している。 ・一部、細砂礫状を呈する。 ●75.59~76.59m ・破砕部である。 ・左ずれセメントである。 ・明褐色の粘土状~灰白~にぶい橙色の硬質粘土~粘土混じり礫状を呈する。 ・硬質褐色粘土、集計値1mm ・走向・傾斜はN41° E30° Wである。 ・傾斜は47° である。 ・上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は37° である。 ・79.15~85.03m ・粘土化が進み、著しく軟質化している。 ・原岩組織と割れ目の一部は残っている。
					明褐灰	D'	100	2	0				
					明褐灰	CL'	100	2	0				
					明褐灰	D'	100	3	0				
					明褐灰	D'	100	5	0				
					明褐灰	CL'	100	5	0				
					明褐灰	D'	100	7	0				
					明褐灰	D'	100	2	0				
					明褐灰	CL'	100	8	0				
					明褐灰	D'	100	4	0				
					明褐灰	D'	100	4	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
101	・一部に粘土を挟在するが、系統的でなく、連続性や直線性に乏しいことから削除。
102	<ul style="list-style-type: none"> ・75.46mで珪質部が割れ目を切るとの記載については、周囲の岩盤の劣化が系統的でないことから削除。 ・75.80~75.87mで礫状化しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・76.11~76.23mで粘土を挟在するが、いずれも連続性に乏しいことから削除。
103	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・76.41m以浅で一部粘土化しているが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

Table with columns for core depth (m), lithology, and detailed observations for core H27-B-3. Includes handwritten notes and diagrams.

Table containing the converted text from the observation cards, organized by depth intervals (104, 105, 106, 107, 108) and lithological descriptions.

Table for the application form columnar diagram, including columns for core number, depth, lithology, and sampling data.

Table summarizing the core observation cards (H27年8月) into the application form columnar diagram, detailing the reasons for inclusion or exclusion of specific data points.

H27-B-3

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

掘削 深さ (m)	深度 (m)	境界 位置	地質名	色	細区分				R	D	Q	備考
					割れ目 の有無	片状 の有無	風化	変質				
05												
07												
08												
09												
10												
11												
12												

基盤岩コア観察カード

記事・硬軟性状・詳細スケッチ等

記事内容
109 80.14～80.31m 幅1m/m、長さ10～20m/mの細脈状にマンガンが密集する。 80.36m以深は硬さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と、岩片間の粘土化部からなる。 80.76～81.68m間は割れ目や岩芯の一部がマンガン鉱染を受ける。
110 81.70～82.40m 岩片間の基質の一部が風化・褐色化が進む。
111 81.90m～84.40m φ1～2m/mの表面がマンガン化した石英粒(石英斑晶)が黒色で点在する。 83.30～83.74mには硬さ「C」の硬質岩片が多く残留。 83.30～83.50m: 岩片間の砂状～粘土化部が風化で褐色化する。
112 84.06～84.54m 10～20° 割れ目ぞいに風化で褐色化する。 また、硬さ「D」岩片が主体。 84.54～84.71m砂状化が拡大している。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、岩組織は消滅している。

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長			記事
								R	Q	D	
							100	5	0	0	
							100	4	0	0	
							100	3	0	0	
							100	3	0	0	
							100	3	0	0	112 84.54～84.71m ・砂状化が進み、軟質粘土を伴う。
							100	2	0	0	85.61～93.25m ・若しく軟質化している。
							100	2	0	0	87.18～91.35m ・砂礫状を呈する。
							100	3	0	0	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
109	<ul style="list-style-type: none"> マンガンについては、補足的なものであるため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 80.36m以深で部分的に粘土化しているが、粘土の連続性や直線性に乏しいことから削除。
110	<ul style="list-style-type: none"> 風化による変色については、補足的なものであるため削除。
111	<ul style="list-style-type: none"> マンガン、変色については、補足的なものであるため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 83.30～83.50mの一部で砂状～粘土状を呈するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
112	<ul style="list-style-type: none"> 岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 深さ (m)	深度 (m)	境界 地層 位置	地質名	色調	細区分			RQD	最大 コア 長さ	硬さ 区分	記事 番号
					割れ 目の 状態	子 割れ 目の 長さ	風 化 変 化				
05.03	05.03										
05.03	05.03										113
05.03	05.03										114
05.03	05.03										115
05.03	05.03										116
05.03	05.03										117

記事内容
85.03～85.61m:CL 一部に硬さ「C」岩片も含むが、割れ目ぞいに砂状化する。 85.36～85.60m間は割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。 85.28～85.32m間は緑泥石化し、淡緑灰色を呈する。 φ0.5m/m以下の微細な黄鉄鉱を伴う。
85.61～91.35m:D 硬さ「D」「C」岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなり全体として軟化が著しい。
86.50～86.78m 40～50° 割れ目ぞいに硬さ「C」「D」岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く、ハンマーの打撃で更に細片化するものが多い。
87.18～91.35m 強風化による砂状化が拡大し残留する硬さ「C」「D」岩片とともに「砂礫状」を呈する。 このうち、87.18～87.52mの基質部はスライムである。
88.18～89.00mは残留している岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。
89.00～90.14mは礫に相当する岩片のみ採取され、基質に相当する砂状～粘土状部に掘進時に流失したものと推定される。

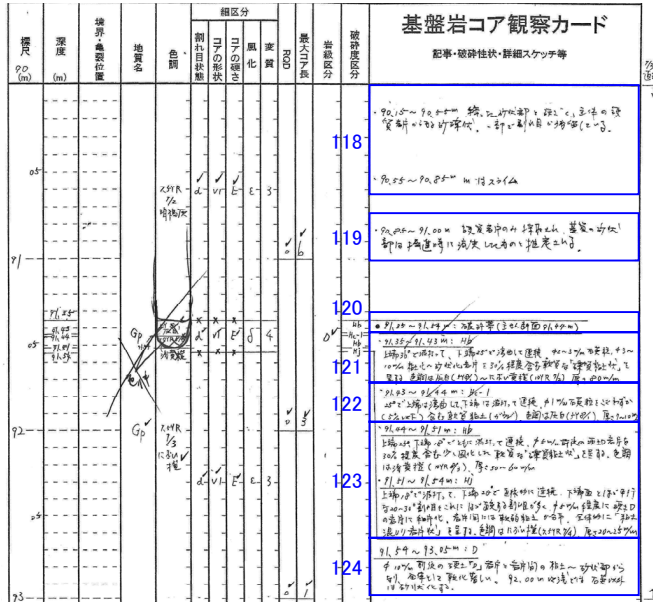
標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	最大コア長	記事
m	m	m	図	区分		区分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(cm)	
					明徳灰	D'	100	5	0			
					明徳灰	D'	100	4	0			
					明徳灰	D'	100	3	0			
					明徳灰	D'	100	3	0			
					明徳灰	D'	100	3	0			
					明徳灰	D'	100	3	0			
					明徳灰	D'	100	2	0			
					明徳灰	D'	100	2	0			
					明徳灰	D'	100	3	0			
					明徳灰	D'	100	3	0			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
113	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 一部割れ目沿いに砂状化するが、系統的でなく、直線性や連続性が乏しいことから削除。 色調、鉱物の晶出、コアの硬さについては、補足的なものであるため削除。
114	<ul style="list-style-type: none"> “コアの硬さ”欄に基づき、下端深度を93.25m、著しく軟質化していると記載。 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。
115	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
116	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 基質部はスライムであるとの記載については、補足的なものであるため削除。
117	<ul style="list-style-type: none"> 岩片の量や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 89.00～90.14mで岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
118 90.15~90.55m 締まった砂状部と硬さ「C」主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。 90.55~90.85mはスライム。
119 90.85~91.00m 硬質岩片のみ採取され、基質の砂状部は掘進時に流失したものと推定される。
120 ●91.35~91.54m: 破砕帯(主せん断面91.44m)
121 91.35~91.43m: Hb 上端36°で波打って、下端25°で湾曲して連続。φ2~3m/石英粒、φ3~10m/粘土化~砂状化岩片を30%程度含む軟質な「礫質粘土状」を呈する。色調は灰白(5Y8/1)~にぶい黄橙(10YR7/2)、厚さ80m/m
122 91.43~91.44m: Hc-1 25°で上端は湾曲して下端は波打って連続。φ1m/石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウン)。色調は灰白(5Y8/1)、厚さ7~10m/m
123 91.44~91.51m: Hb 上端25°、下端18°でともに波打って連続。φ5m/前後の硬さD岩片を30%程度含む少し風化した軟質な「礫質粘土状」を呈する。色調は浅黄橙(10YR8/3)、厚さ30~60m/m
123 91.51~91.54m: Hj 上端18°で波打って、下端20°で直線的に連続。下端面とほぼ平行な20~30°割れ目とこれにほぼ直交する割れ目が多くφ5m/程度に硬さDの岩片に細片化。岩片間には軟弱粘土が分布。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/4)、厚さ20~25m/m
124 91.54~93.05m: D φ10m/前後の硬さ「D」岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり、全体として軟化著しい。92.00m/以下では石英以外は砂状化する。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長(%)	記事
90				黄褐色粘板岩	にぶい橙	D'	100	3	0				●91.35~91.54m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰白色の粘土状~灰白~にぶい黄橙~浅黄褐色の礫質粘土状~にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈している。 ・灰白色粘土+累計厚10mm ・走向・傾斜はN64°W20°Sである。 ・傾斜は25°である。 ・上盤境界の傾斜は36°、下盤境界の傾斜は20°である。 91.54~92.00m ・石英以外は砂状化している。 93.05~93.08m ・粘土化及び砂状化が著しい。 ●93.05~93.08m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる
				灰層	にぶい橙	D'	100	6	0				
				灰層	にぶい橙	D'	100	3	0				
				灰層	にぶい橙	D'	100	1	0				
				明礫灰	にぶい橙	OL'	100	3	0				
				灰層	にぶい橙	OL'	100	4	0				
				明礫灰	にぶい橙	OL'	100	2	0				
				灰層	にぶい橙	OL'	100	2	0				
				明礫灰	にぶい橙	OL'	100	6	0				
				灰層	にぶい橙	OL'	100	7	0				
				明礫灰	にぶい橙	OL'	100	2	0				
				灰層	にぶい橙	OL'	100	5	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
118	<ul style="list-style-type: none"> ・締まった砂状及び砂礫状を呈するが、記事No.116でまとめ書きしているため削除。 ・割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・スライム区間については、ポアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため、コア写真で示すこととし削除。
119	<ul style="list-style-type: none"> ・岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
120~123	<ul style="list-style-type: none"> ・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなること記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
124	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	層序 位置	地質 記号	割れ目状況		RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	記事
				傾斜	長さ				
73	93.05			○	3	3	100	CL	125
73	93.66			○	4	3	100	D	126
77	94.25			○	3	3	100	C	127
75	95.50			○	3	3	100	C	128

記事内容
93.05～93.66m: CL 70～80° 割れ目が多く、割れ目ぞいに厚1～3m/m程度の砂状部～粘土部をはさむ。
93.66～93.86m: D 上下端80° 割れ目に囲まれ粘土化と砂状化が著しい。
93.86～94.31m: CL 50～70° とこれに直交する40～50° 割れ目が多い。 94.43m以浅は硬さ「D」が、94.43m以深は硬さ「C」が主体。 94.25～94.31mは10～20° 割れ目に囲まれ「砂礫状」を呈する。 94.43m以深では岩片自体は硬さ「B」相当のものも多く含むが割れ目が10～20m/m程度の間隔で交差するため小岩片している。 割れ目の一部はマンガン鉱染を受ける。
95.50～95.71mは割れ目から分離、φ10m/m前後の小岩片している。

標尺 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	最大コア長 (cm)	記事
90			黄土層	黄褐色	D'	100	3	0	0	0		●91.35～91.54m ・破砕部である。カタクレサイトからなる。 ・灰白色の粘土状～灰白～にふい黄褐色～透黄褐色の硬質粘土状～にふい褐色の粘土混じり塊状を呈している。 ・硬片径：最大10mm ・走向・傾斜はN64° W20° Sである。 ・傾斜は25° である。 ・上盤境界の傾斜は36°、下盤境界の傾斜は20° である。 ・91.54～92.00m ・石基以外は砂状化している。 126 93.66～93.86m ・粘土化及び砂状化が著しい。 ●95.50～95.68m ・破砕部である。カタクレサイトからなる
						100	6	0	0	0		
						100	3	0	0	0		
						100	1	0	0	0		
						100	3	0	0	0		
						100	4	0	0	0		
						100	2	0	0	0		
						100	2	0	0	0		
						100	6	0	0	0		
						100	7	0	0	0		
100			花崗岩	灰褐色	CL'	100	2	0	0	0		
						100	5	0	0	0		

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
125	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・一部割れ目に粘土を挟在するが、いずれも連続性に乏しいことから削除。
126	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
127, 128	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・94.25～94.31mで砂礫状を呈するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。

H27-B-3

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地層 位置	地層 名称	細区分				地層 区分	地層 記号	備考
				割れ目の 形状	風化 程度	硬さ	色			
96	95.96								129	95.96m 60°割れ目に厚1m/m灰白色軟質粘土をはさむ。上盤側厚さ約5m/mにマンガン鉱染部を伴う。
	95.94									95.94m~98.05mは硬さ「D」の岩片状コア主体、処々に硬さ「C」も混入する。
	97.60								130	96.52~97.60m 30~40°と60~70°割れ目が交差し前者が後者に切られるものもある。(右ズレ3~5m/m)
	97.07								131	97.07m 幅2~3m/m, 15°石英脈。劣化は伴わず密着。
	97.69								132	97.58~97.69m マンガン鉱染が進み黒褐色化。
	97.78								133	97.69m~97.78m 硬さ「C」岩片中に固結状の幅1~2m/m白色粘土が脈状~φ2~3m/m斑点状で分布する。

記事内容	
129	95.96m 60°割れ目に厚1m/m灰白色軟質粘土をはさむ。上盤側厚さ約5m/mにマンガン鉱染部を伴う。 95.94m~98.05mは硬さ「D」の岩片状コア主体、処々に硬さ「C」も混入する。
130	96.52~97.60m 30~40°と60~70°割れ目が交差し前者が後者に切られるものもある。(右ズレ3~5m/m)
131	97.07m 幅2~3m/m, 15°石英脈。劣化は伴わず密着。
132	97.58~97.69m マンガン鉱染が進み黒褐色化。
133	97.69m~97.78m 硬さ「C」岩片中に固結状の幅1~2m/m白色粘土が脈状~φ2~3m/m斑点状で分布する。

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 形状	岩種 区分	色	岩 級 区 分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記事
				灰 褐色	CL	100	3	0				・灰白色の粘土状~灰白~にふい黄緑~黄褐色の硬質粘土状~にふい黄色の粘土混じり塊状を呈している。 ・灰白色粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN64°W20°Sである。 ・傾斜は25°である。 ・上盤境界の傾斜は36°、下盤境界の傾斜は20°である。 ・91.54~92.00m ・石英以外は砂状化している。 ・93.06~93.88m ・粘土化及び砂状化が著しい。 ・99.50~99.68m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる ・灰白色の砂混じり粘土状~明黄緑~褐色の粘土・砂混じり塊状を呈する。 ・灰白色砂混じり粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN15°W30°Eである。 ・傾斜は38°である。 ・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は37°である。 ・102.00~104.28m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
				灰 褐色	CL	100	4	0				
				明褐色 にふい 黄	CL	100	2	0				
				灰 褐色	CL	100	6	0				
				明褐色 にふい 黄	CL	100	7	0				
				灰 褐色	CL	100	2	0				
				明褐色 にふい 黄	CL	100	5	0				
				灰 褐色	CL	100	8	0				
				明褐色 にふい 黄	CM	100	12	12				
				灰 褐色	CM	100	8	0				
				明褐色 にふい 黄	CH	100	12	23				
				明褐色 にふい 黄	CM	100	18	31				
				明褐色 にふい 黄	CM	100	10	10				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
129	<ul style="list-style-type: none"> 粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。 マンガンについては、補足的なものであるため削除。
130	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 96.52~97.60mで割れ目が切られるとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
131	<ul style="list-style-type: none"> 鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
132	<ul style="list-style-type: none"> マンガン、変色については、補足的なものであるため削除。
133	<ul style="list-style-type: none"> 粘土を挟在するが、系統的でなく、連続性や直線性に乏しいことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 番号	地層名	相区分										最大コア長 (cm)	最大コア径 (cm)	記事番号
				細粒 粘土	粗粒 粘土	シルト	砂	礫	砂岩	粘板岩	頁岩	砂岩	粘板岩			
97	98.02														134	98.02m 幅2~5m/m, 30° 石英脈。一部で褐色割れ目化する。
95	98.19														135	98.19~98.92m 硬さ「C」主体。 割れ目の面は褐色化するものが多い。 割れ目ぞいに軟化する部分もある。
99	99.57														136	99.57~99.58m 硬さ「D」主体。全体に軟化しているが風化、変質は弱い。
97	99.50														137	●99.50~99.68m 破碎帯(主せん断面99.56m) 99.50~99.56m:Hj 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行な割れ目数条と、これに直交~60°斜交する割れ目でφ5~10m/m硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1~3m/m白色軟弱粘土が脈状に分布し「粘土混じり岩片状」を呈する。一部にマンガン鉱染伴う。
95	99.56														138	色調は明黄褐(10YR6/6)、厚さ45m/m 99.56~99.57m:Hc-2 38°で上下端とも波打って連続。φ1~3m/mの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含む半固結粘土(ガウジ)。 色調は灰白(7.5YR8/2)、厚さ5~10m/m 99.57~99.68m:Hj 上端45°で波打って、下端37°で直線的に連続。主せん断面と平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、φ5~20m/mに岩片化。 岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部をはさむ「砂混じり岩片状」を呈し、マンガン鉱染のため黒っぽい色調の褐灰(10YR4/3)で厚さ85m/m
93	100.00														139	
91	100.60														140	

記事内容
98.02m 幅2~5m/m, 30° 石英脈。一部で褐色割れ目化する。
98.19~98.92m 硬さ「C」主体。 割れ目の面は褐色化するものが多い。 割れ目ぞいに軟化する部分もある。
98.92~99.50m 硬さ「D」主体。全体に軟化しているが風化、変質は弱い。
●99.50~99.68m 破碎帯(主せん断面99.56m)
99.50~99.56m:Hj 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行な割れ目数条と、これに直交~60°斜交する割れ目でφ5~10m/m硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1~3m/m白色軟弱粘土が脈状に分布し「粘土混じり岩片状」を呈する。一部にマンガン鉱染伴う。
色調は明黄褐(10YR6/6)、厚さ45m/m
99.56~99.57m:Hc-2 38°で上下端とも波打って連続。φ1~3m/mの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含む半固結粘土(ガウジ)。 色調は灰白(7.5YR8/2)、厚さ5~10m/m
99.57~99.68m:Hj 上端45°で波打って、下端37°で直線的に連続。主せん断面と平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、φ5~20m/mに岩片化。 岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部をはさむ「砂混じり岩片状」を呈し、マンガン鉱染のため黒っぽい色調の褐灰(10YR4/3)で厚さ85m/m

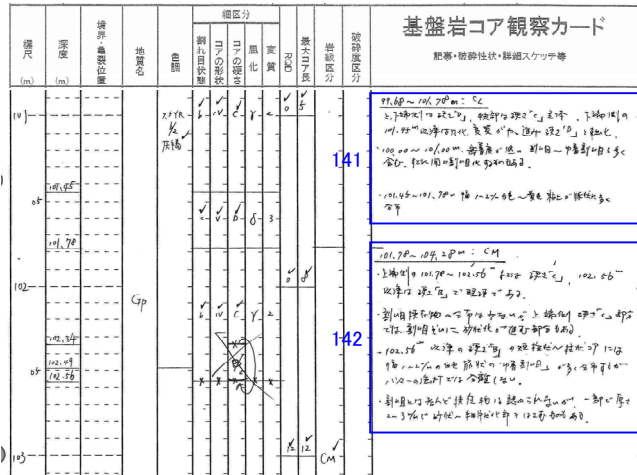
標尺 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	記事
97	98.02					100	3	0							
95	98.19					100	4	0							
99	99.57					100	2	0							
97	99.50					100	6	0							
95	99.56					100	7	0							
93	100.00					100	2	0							
91	100.60					100	5	0							
89	101.20					100	8	0							
87	101.80					100	12	12							
85	102.40					100	8	0							
83	103.00					100	12	23							
81	103.60					100	18	31							
79	104.20					100	10	10							

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
134	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
135	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目の変色については、補足的なものであるため削除。 ・98.92~99.50mの風化・変質の程度については、周囲と明瞭な差が認められないことから削除。
136~140	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状及び砂混じり岩片状→粘土・砂混じり礫状) ・φ1~3mmの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含むとの記載に基づき、砂混じり粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破碎部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・破碎度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。

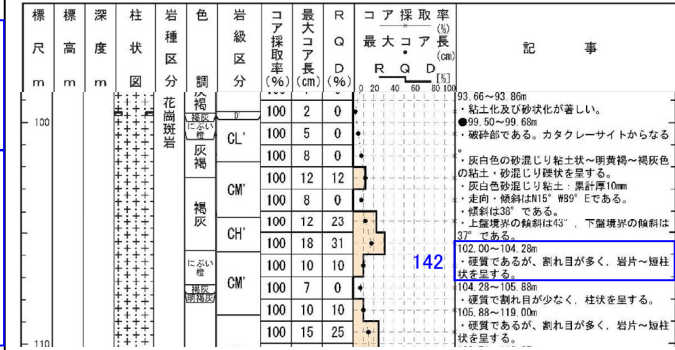
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
<p>99.68～101.78m: CL 上下端側は硬さ「D」、中央部は硬さ「C」主体。下端側の101.45m以深は風化、変質がやゝ進み硬さ「D」と軟化。 100.00～101.00m 密着度が低い割れ目～ゆ着割れ目を多く含む。すでに開口割れ目化するものもある。 101.45～101.78m 幅1～2m/m白色～黄色粘土が脈状に多く分布。</p>
<p>101.78～102.28m: CM 上端側の101.78～102.56mまでは硬さ「C」、102.56m以深は硬さ「B」で堅硬である。 割れ目挟在物の分布は少ないが上端側硬さ「C」部分では、割れ目ぞいに砂状が進む部分もある。 102.56m以深の硬さ「B」の短柱状～柱状コアには幅1～2m/mの白色筋状の「ゆ着割れ目」が多く分布するがハンマーの強打では分離しない。 割れ目には殆んど挟在物は認められないが、一部で厚さ2～3m/mで砂状～細片状化部をはさむものもある。</p>



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
141	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。 ・一部で粘土を挟在するが、いずれも連続性や直線性に乏しいことから削除。
142	<ul style="list-style-type: none"> ・上端深度101.78m→102.00m^{※1} ・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質、岩片～短柱状と記載。 ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の挟在物の有無、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目ぞいに砂状～細片状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-3

コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	層序 位置	地質 記号	割れ目形状				割れ目 長さ	割れ目 密度	割れ目 方向	割れ目 性状	備考
				割れ目 形状	割れ目 長さ	割れ目 密度	割れ目 方向					
103	05										143	
104	05										144	

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
103.24m, 103.48mのいずれも65° 割れ目は交差する割れ目を切り(変位量不明), 前者で厚さ2~3m/m, 後者で2m/m程度の砂をはさむ。マンガンも伴う。
103.94~104.0m 風化で淡褐色化し軟化する。
104.28~105.88m: CH 硬硬で塊状 一部でゆ着割れ目(白い筋状のもの)が分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。

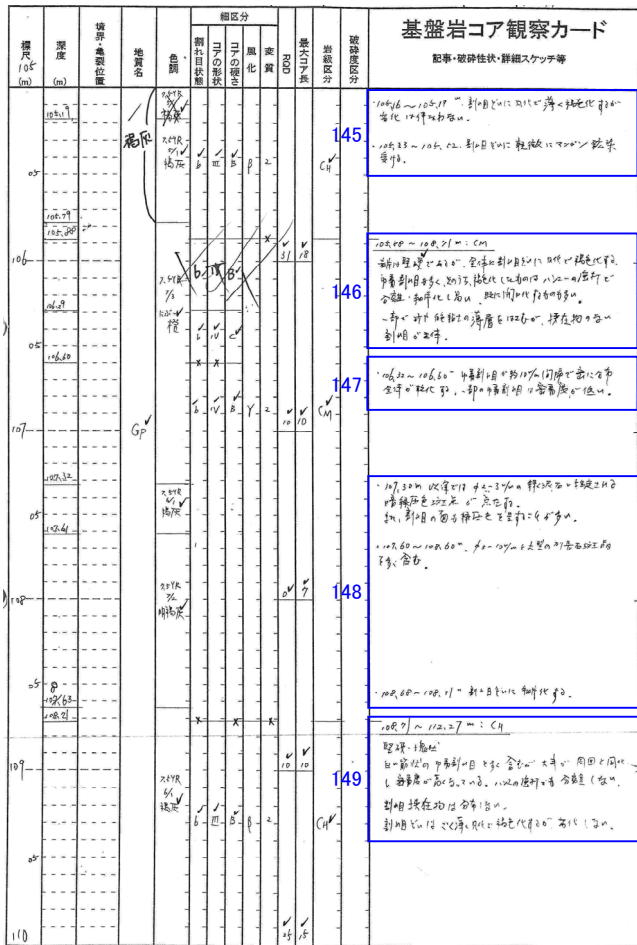
申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア採取 率(%)	最大 コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)			記事
											R	Q	D	
100			調給 花崗斑岩		CL'	100	2	0						93.66~93.86m ・粘土化及び砂状化が著しい。 ●93.50~99.68m ・破砕部である。カタクレースイトからなる
			灰褐色		CM'	100	5	0						・灰白色の砂混じり粘土状~明黄褐色~褐色の粘土・砂混じり砂状を呈する。
			褐色		CH'	100	8	0						・灰白色砂混じり粘土・累砕層10mm ・走向・傾斜は約15° 30° である。 ・傾斜は33° である。
			に白い 筋		CH'	100	12	12						・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は37°である。
			褐色		CM'	100	18	31						102.00~104.28m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
			褐色		CM'	100	10	10						104.28~105.88m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
			褐色		CM'	100	7	0						105.88~119.00m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
					CM'	100	10	10						
					CM'	100	15	25						

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
143	<ul style="list-style-type: none"> ・103.24mと103.48mで割れ目を切りとの記載があり、一部で砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガン、色調については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
144	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・“コアの硬さ”欄、“コアの形状”欄に基づき、硬質、柱状と記載。 ・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
145 105.16～105.19m 割れ目ぞいに風化で薄く褐色化するが劣化は伴わない。 105.33～105.52 割れ目ぞいに軽微にマンガン鉱染を受ける。
146 105.88～108.71m: CM 岩片は堅硬であるが、全体に割れ目ぞいに風化で褐色化する。 ゆ着割れ目も多く、そのうち、褐色化したものはハンマーの強打で分離・細片化し易い。既に開口化するものも多い。 一部で砂や白色粘土の薄層をはさむが、挟在物のない割れ目が主体。
147 106.32～106.60m ゆ着割れ目が約10m/m間隔で密に分布全体が軟化する。 一部のゆ着割れ目は密着度が低い。
148 107.30m以深ではφ2～3m/mの緑泥石と推定される暗緑灰色斑点が点在する。 また、割れ目の面も緑灰色を呈することが多い。 107.60～108.60m φ5～10m/mと大型の砂長石斑晶を多く含む。
149 108.68～108.71m 割れ目ぞいに細片化する。 108.71～112.27m: CH 堅硬・塊状 白い筋状のゆ着割れ目を多く含むのが大半が周囲と同化し、密着度が高くなっている。ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目挟在物は分布しない。 割れ目ぞいのごく薄く風化で褐色化するが劣化しない。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(㎝)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(㎝)	記事
m	m	m	図											
						CH'	100	12	23	*				・傾斜は30°である。 ・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は37°である。 102.00～104.28m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。 104.28～105.88m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。 105.88～119.00m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。 108.71～112.27m ・割れ目が少なく、柱状を呈する。 112.27～113.27m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。
						CH'	100	18	31	*				
						CM'	100	10	10	*				
						CM'	100	7	0	*				
						CH'	100	10	10	*				
						CH'	100	15	25	*				
						CH'	100	15	25	*				
						CH'	100	12	12	*				
						CM'	100	10	20	*				
						CH'	100	20	72	*				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
145	・変色、マンガンについては、補足的なものであるため削除。
146	・“コアの形状”欄に基づき、下端深度を119.00m、岩片～短柱状と記載。 ・“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 ・割れ目治いの変色、割れ目の密着状態・開口状況、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・一部で砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
147	・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
148	・鉱物の晶出、割れ目治いの変色については、補足的なものであるため削除。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・108.68～108.71mで細片化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
149	・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・“コアの形状”欄に基づき、柱状と記載。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の密着状態、割れ目治いの色調については、補足的なものであるため削除。

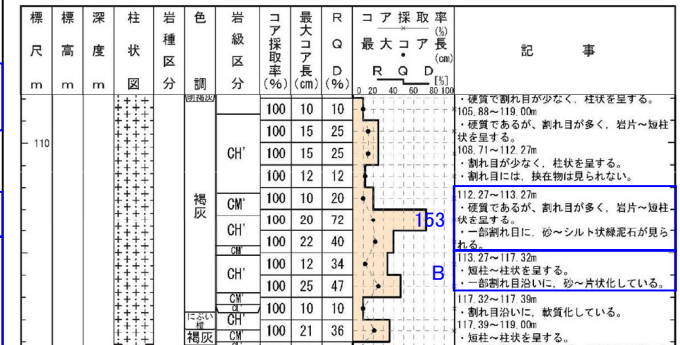
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 110 (m)	深度 (m)	境界 位置	地質 名	細区分		RQD	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				割れ目性状	コアの性状				
110	110.30								150 110.30~110.95m 50~60°とこれに直交~斜交する10~30°割れ目やゆ着割れ目が多い。ゆ着割れ目は密着度が高い。両者割れ目は後者割れ目の一部を切っている。
111	111.14								151 111.14m 76°割れ目に厚さ1~2m/m緑泥石粘土~シルトをはさむ。 φ0.1m/mの微小なセリサイトも点在する。 111.31~111.34m 割れ目ぞいに薄く風化・褐色化する。
112	112.00								152 112.00~112.27m 70~80°とこれに直交する20~30°のゆ着割れ目が約10m/m間隔で密集するが、密着度が高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。 112.27~113.27m: CM 堅硬であるが上下位に比べ割れ目がやよくなる。ゆ着割れ目も多いが、上端の112.27~112.32mを除き密着度は高い。割れ目には挟雑物は分布せず、その面も未風化・新鮮なものが主体である。一部の割れ目で緑泥石が厚さ1m/m程度砂状~シルト状を呈する。
113	113.27								153 113.27~117.32m: 短柱~柱状と記載。 記事No.156, 157に基づき、一部割れ目沿いに砂~片状化しているとまとめ書き。

記事内容
150 110.30~110.95m 50~60°とこれに直交~斜交する10~30°割れ目やゆ着割れ目が多い。ゆ着割れ目は密着度が高い。両者割れ目は後者割れ目の一部を切っている。
151 111.14m 76°割れ目に厚さ1~2m/m緑泥石粘土~シルトをはさむ。 φ0.1m/mの微小なセリサイトも点在する。 111.31~111.34m 割れ目ぞいに薄く風化・褐色化する。
152 112.00~112.27m 70~80°とこれに直交する20~30°のゆ着割れ目が約10m/m間隔で密集するが、密着度が高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。 112.27~113.27m: CM 堅硬であるが上下位に比べ割れ目がやよくなる。ゆ着割れ目も多いが、上端の112.27~112.32mを除き密着度は高い。割れ目には挟雑物は分布せず、その面も未風化・新鮮なものが主体である。一部の割れ目で緑泥石が厚さ1m/m程度砂状~シルト状を呈する。
153 113.27~117.32m: 短柱~柱状と記載。 記事No.156, 157に基づき、一部割れ目沿いに砂~片状化しているとまとめ書き。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
150	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 割れ目の傾斜, 割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 割れ目の一部を切っているとの記載については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
151	<ul style="list-style-type: none"> 粘土~シルトを挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
152	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目沿いの変色, 割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。
153	<ul style="list-style-type: none"> “コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質、岩片~短柱状と記載。 岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 風化の程度については、岩級区分に含めて示していることから削除。 割れ目の密着状態, 挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 砂状~シルト状部の幅については、ばらつきがあるため削除。
B	<ul style="list-style-type: none"> “コアの形状”欄に基づき、113.27~117.32m, 短柱~柱状と記載。 記事No.156, 157に基づき、一部割れ目沿いに砂~片状化しているとまとめ書き。

H27-B-3

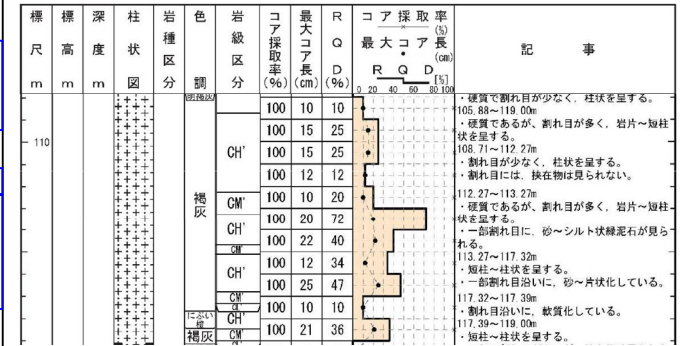
コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	採寸 位置	採寸 位置	採寸 位置	細区分								岩級区分	記事
					割れ目 の長さ	割れ目 の角度	割れ目 の形状	割れ目 の密度	割れ目 の方向	割れ目 の形状	割れ目 の密度	割れ目 の方向		
115	113.27												113.27~114.68m: CH 堅硬、塊状。 割れ目は少ないが70~80°の高角度系が主体。ゆ着割れ目も同傾向で密着度が高い。	
114	114.24												114.24m 80° ゆ着割れ目ぞいにφ2~3m/暗緑灰色の緑泥石が点在する。 114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。 軟化、粘土化などの劣化は伴わない。	
115	114.68												114.68~115.12m: CM 70~80° 割れ目が多く、このうち、114.89~115.12m間は上端厚さ5m/m、下端30m/mで砂状化~片状化する。	

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
113.27~114.68m: CH 堅硬、塊状。 割れ目は少ないが70~80°の高角度系が主体。ゆ着割れ目も同傾向で密着度が高い。
114.24m 80° ゆ着割れ目ぞいにφ2~3m/暗緑灰色の緑泥石が点在する。 114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。 軟化、粘土化などの劣化は伴わない。
114.68~115.12m: CM 70~80° 割れ目が多く、このうち、114.89~115.12m間は上端厚さ5m/m、下端30m/mで砂状化~片状化する。

申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
154	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
155	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目沿いの鉱物晶出については、補足的なものであるため削除。
156	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の変色、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化や片状化がみられるが、記事No.Bでまとめ書きしていることから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 115 (m)	深度 115.00 (m)	境界 番号 位置	地質名	色調	割れ目状態	岩の形状	風化	変質	RCQ	最大コア長	破砕度区分	記事
	115.12											115.12~116.8m: CH 堅硬、密着度の高いゆ着割れ目が多いが、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。 115.12m 80°割れ目の面に厚1m/m程度の緑泥石粘土がはさまれる。上盤側厚さ約30m/mは片状化している。 115.90~116.10m間ではφ5m/m前後の橙色のカリ長石が多く分布する。 116.33mで70~80°で湾曲する割れ目と40°割れ目が交差。 後者は前者で切られる(変位量10m/m右ズレ) 両割れ目の一部に厚1m/m、交差部で5m/mの緑泥石砂状~シルト(粘土)をはさんでいる。 116.80~117.32m: CM 一部に硬さ「C」が混ざるが概ね堅硬な硬さ「B」が主体。 割れ目が多くなるがゆ着割れ目は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 長石は白濁化するものが多い。 挟雑物は分布しない。
	116.80											116.80~117.32m: CM 一部に硬さ「C」が混ざるが概ね堅硬な硬さ「B」が主体。 割れ目が多くなるがゆ着割れ目は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 長石は白濁化するものが多い。 挟雑物は分布しない。
	117.32											117.32~117.39m: CL 75°割れ目ぞいに厚さ20~25m/mが風化で軟化する。
	117.39											117.39~118.47m: CH 堅硬、一部で割れ目多いがコア長10cm以上の棒状コア主体。 白色筋状のゆ着割れ目も多いが、大半は密着度高くハンマーの強打でも分離しない。 φ2~3m/m暗緑灰色の緑泥石が点在する。 割れ目には挟在物は分布しない。 117.65~118.40m 橙色のカリ長石が多く、全体ににぶい橙色の色調を呈する。 118.47~119.00m: CM 上位に比べ割れ目が多くなるが、岩片は堅硬(硬さ「B」)で、挟在物は分布しない。 長石は白濁化することが多い。
	118.47											118.47~119.00m: CM 上位に比べ割れ目が多くなるが、岩片は堅硬(硬さ「B」)で、挟在物は分布しない。 長石は白濁化することが多い。

記事内容
115.12~116.8m: CH 堅硬、密着度の高いゆ着割れ目が多いが、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。 115.12m 80°割れ目の面に厚1m/m程度の緑泥石粘土がはさまれる。上盤側厚さ約30m/mは片状化している。 115.90~116.10m間ではφ5m/m前後の橙色のカリ長石が多く分布する。 116.33mで70~80°で湾曲する割れ目と40°割れ目が交差。 後者は前者で切られる(変位量10m/m右ズレ) 両割れ目の一部に厚1m/m、交差部で5m/mの緑泥石砂状~シルト(粘土)をはさんでいる。 116.80~117.32m: CM 一部に硬さ「C」が混ざるが概ね堅硬な硬さ「B」が主体。 割れ目が多くなるがゆ着割れ目は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 長石は白濁化するものが多い。 挟雑物は分布しない。
117.32~117.39m: CL 75°割れ目ぞいに厚さ20~25m/mが風化で軟化する。
117.39~118.47m: CH 堅硬、一部で割れ目多いがコア長10cm以上の棒状コア主体。 白色筋状のゆ着割れ目も多いが、大半は密着度高くハンマーの強打でも分離しない。 φ2~3m/m暗緑灰色の緑泥石が点在する。 割れ目には挟在物は分布しない。 117.65~118.40m 橙色のカリ長石が多く、全体ににぶい橙色の色調を呈する。 118.47~119.00m: CM 上位に比べ割れ目が多くなるが、岩片は堅硬(硬さ「B」)で、挟在物は分布しない。 長石は白濁化することが多い。

標尺 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア採取率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
110					CH ⁺	100	10	10			105.88~119.00m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 108.71~112.27m ・割れ目が少なく、柱状を呈する。 ・割れ目には、挟在物は見られない。 112.27~113.27m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 ・一部割れ目に、砂~シルト状緑泥石が見られる。 113.27~117.32m ・短柱~柱状を呈する。 ・一部割れ目に、砂~片状化している。 117.32~117.39m ・割れ目ぞいに、軟質化している。 117.39~119.00m ・短柱~柱状を呈する。 ・下部に割れ目が多いが、挟在物は見られない。
					CH ⁺	100	15	25			1158
					CH ⁺	100	15	25			1159
					CH ⁺	100	12	12			
					CH ⁺	100	10	20			
					CH ⁺	100	20	72			
					CH ⁺	100	22	40			
					CH ⁺	100	12	34			
					CH ⁺	100	25	47			
					CH ⁺	100	10	10			
					CH ⁺	100	21	36			
					CH ⁺	100	3	0			
					GL						119.14~119.30m 暗緑灰色の塊状を呈する。 ●119.11~119.25m(D-1破砕帯) ・破砕部である。 ・正層層ノズルである。 ・暗灰色の粘土状~にぶい橙~暗緑灰色の粘土混じり塊状を呈する。 ・緑灰色粘土、累計厚10mm ・走向・傾斜はN20°E37°Wである。 ・傾斜は30°である50。 ・上盤境界の傾斜は、下盤境界の傾斜は43°である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
157	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の変色、割れ目の密着状態、鉱物の色調、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 115.12mに粘土を挟在するが、下位側の岩盤に劣化が認められないことから削除。 116.33mに砂~粘土を挟在し、割れ目が切られるとの記載があるが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 一部割れ目ぞいに砂状化や片状化がみられるが、記事No.Bでまとめ書きしていることから削除。
158	<ul style="list-style-type: none"> 岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 軟質化している区間の幅については、ばらつきがあるため削除。
159	<ul style="list-style-type: none"> “コアの形状”欄に基づき、下端深度を119.00m、短柱~柱状と記載。 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 割れ目の密着状態、鉱物の晶出、色調については、補足的なものであるため削除。 長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。

H27-B-3

コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	採掘位置	傾斜	方位	破砕帯		備考	記事
					最大幅	長さ		
119.00	119.00							160
119.11	119.11							161
119.16	119.16							162
119.18	119.18							163
119.25	119.25							164
120.00	120.00							165

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
119.00~119.11m:CL 風化と変質が進み全体が軟化する。
160 ●119.11~119.25m 破砕帯(主せん断面119.18m) アブライト(Ap)貫入部の破砕帯
161 119.11~119.16m:Hj 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。φ5~10m/m角礫状岩片からなり、岩片間は幅1m/m以下で白色、1~3m/mで緑灰色のいずれも軟弱粘土をはさみ「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調はにぶい橙(7.5YR7/4)~暗緑灰(10G4/1)、厚さ30m/m
162 119.16~119.18m:Hc-1 60°で上端波打ち、下端は直線的に連続。φ1m/m石英をわずかに含む軟弱粘土(ガウジ)。 色調は緑灰(10G5/1)、厚さ7~10m/m
163 119.18~119.25m:Hj 117~120m コアノ箱なし。
164 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行~これと斜交する割れ目でφ2~5m/mに細片化。岩片間の一部は幅1m/m緑灰色粘土細脈が多く分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調は暗緑灰(10G4/1)、厚さ40m/m
165

申請書用柱状図

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	採取率(%)	記事
						100	21	36				117.39~119.00m ・短柱~柱状を呈する。 ・下部に割れ目が多いが、挟在物は見られない。
						100	3	0				119.14~119.30m ・暗緑灰色の塊状を呈する。 ●119.11~119.25m(D-1破砕帯) ・破砕帯である。 ・主断面層セリスである。 ・緑灰色の粘土状~にぶい橙~暗緑灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・緑灰色粘土、累計厚10mm ・走向・傾斜はN20°E37°Wである。 ・傾斜は60°である50。 ・上盤境界の傾斜は、下盤境界の傾斜は43°である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
160	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、「岩級区分」欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
161~165	<ul style="list-style-type: none"> ・破砕帯名を記載。 ・薄片観察の結果で得られた、最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・「傾斜は60°である50。上盤境界の傾斜は」は、「傾斜は60°である。上盤境界の傾斜は50°」の誤り。^{※2} ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・「色調」欄に基づき、暗緑灰色と記載。 ・「コアの形状」欄及び、区間内に破砕部が分布することから、礫状とまとめ書き。

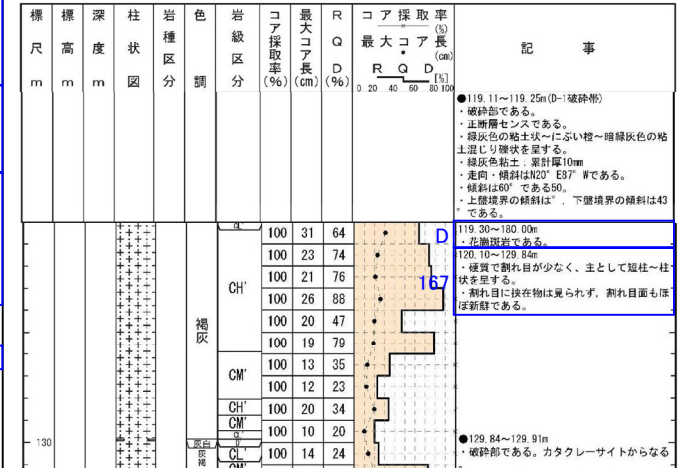
H27-B-3 コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	地層名	地質	割れ目状況		備考	地質		備考	地質		備考	地質	備考
				開口	密着		地質	備考		地質	備考			
129.25													166	119.25～120.10m CL 風化で全体が軟化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留。 割れ目の一部に厚さ2m/mの緑灰色・緑泥石粘土脈をはさむ。 下端の120.02～120.09mは割れ目ぞいに砂状化進む。 120.09～120.10m 60°、厚さ10～15m/m緑泥石脈で軟化している。
129.10													167	120.10～125.90m CH 堅硬、塊状。 割れ目挟在物は分布せず、面もほとんど未風化・新鮮。 長石の白濁化は殆んど認められない。
121.60													168	121.60m ゆるぎ割れ目が開口割れ目化している。
122.36													169	122.36m 65° 割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出。
122.61													170	122.61m 60° 割れ目厚2m/mの褐色砂はさむ。
123.63													170	123.63～123.67m 割れ目ぞいに片状化するが岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない。

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
119.25～120.10m: CL 風化で全体が軟化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留。 割れ目の一部に厚さ2m/mの緑灰色・緑泥石粘土脈をはさむ。 下端の120.02～120.09mは割れ目ぞいに砂状化進む。 120.09～120.10m 60°、厚さ10～15m/m緑泥石脈で軟化している。
120.10～125.90m: CH 堅硬、塊状。 割れ目挟在物は分布せず、面もほとんど未風化・新鮮。 長石の白濁化は殆んど認められない。
121.60m ゆるぎ割れ目が開口割れ目化している。
122.36m 65° 割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出。
122.61m 60° 割れ目厚2m/mの褐色砂はさむ。
123.63～123.67m 割れ目ぞいに片状化するが岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない。

申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
166	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化し、粘土を挟在するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
167	<ul style="list-style-type: none"> ・“コアの形状”欄に基づき、下端深度を129.84m、短柱～柱状と記載。 ・“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
168	・割れ目の密着状態・開口状況、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
169	・砂を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
D	・“地質名”欄に基づき、花崗斑岩及びその深度区間を記載。
170	・割れ目沿いに片状化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。

H27-B-3

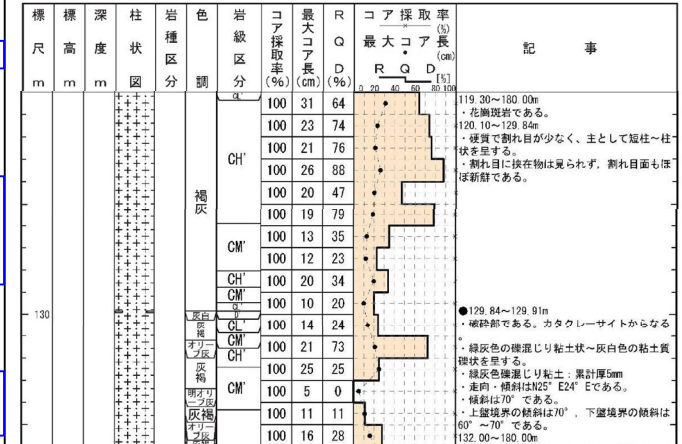
コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地質名	色調	細区分					岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				割れ目状態	開口状態	風化	実質	RQD			
0.5				✓	✓	✓	✓	✓	CM	171 125.00m以深ではゆ着割れ目は殆んど分布しない。	
12.6	12.60			✓	✓	✓	✓	✓	CM	172 125.90~128.05m: CM 堅硬であるがゆ着割れ目から開口割れ目化したものが多い。 割れ目は挟在物にはさまず、ほど未風化で新鮮。 ほど全区間に亘り60~90°のゆ着割れ目ぞいに割れ目化し、一部ではその周辺が片状化していることが多い。	
12.7	12.75	Gp	灰緑	✓	✓	✓	✓	✓	CMV	173 127.15~127.58m 80~90°の開口化したゆ着割れ目数本が約10m/m間隔で平行に分布。 全幅約50m/mに亘り片状化するが砂状化や粘土化などの劣化は伴わない。	

記事内容
171 125.00m以深ではゆ着割れ目は殆んど分布しない。
172 125.90~128.05m: CM 堅硬であるがゆ着割れ目から開口割れ目化したものが多い。 割れ目は挟在物にはさまず、ほど未風化で新鮮。 ほど全区間に亘り60~90°のゆ着割れ目ぞいに割れ目化し、一部ではその周辺が片状化していることが多い。
173 127.15~127.58m 80~90°の開口化したゆ着割れ目数本が約10m/m間隔で平行に分布。 全幅約50m/mに亘り片状化するが砂状化や粘土化などの劣化は伴わない。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
171	・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
172	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
173	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。